

2009 年度 工学部情報画像工学科 A コース 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1H308001	人間の情報処理入門	2.0	3 年前期水曜 4 限	矢口 博久	情画 4
T1Y016001	造形演習	2.0	前期火曜 5 限	植田 憲	情画 4
T1Y016002	造形演習	2.0	前期火曜 5 限	田内 隆利	情画 5
T1Y016003	造形演習	2.0	前期火曜 5 限	玉垣 庸一他	情画 6
T1Y016004	造形演習	2.0	前期火曜 5 限	福川 裕一	情画 6
T1Y016005	造形演習	2.0	前期火曜 5 限	UEDA EDILSON SHINDI	情画 6
T1H307001	画像作り実習	2.0	3 年前期木曜 3,4 限隔週 1,3	久下 謙一	情画 7
T1Z051001	工学倫理	2.0	3,4 年後期月曜 5 限	森永 良丙	情画 65
T1H311002	光物性基礎	2.0	3 年後期水曜 1 限	久下 謙一	情画 9
T1H303002	情報画像とマテリアル	2.0	3 年後期木曜 4 限	宮川 信一	情画 10
T1H063101	インターンシップ	2.0	3 年通期集中	伊藤 秀男	情画 10
T1H019001	情報理論 (情報画像)	2.0	3 年前期月曜 3 限	須鎗 弘樹	情画 11
T1H088001	光機能材料	2.0	3 年前期月曜 4 限	高原 茂	情画 12
T1H319001	先端材料	2.0	3 年前期月曜 5 限	星野 勝義	情画 13
T1H319002	先端材料	2.0	3 年前期木曜 5 限	星野 勝義	情画 13
T1H025001	パターン認識 (情報画像)	2.0	3 年前期火曜 2 限	津村 徳道	情画 14
T1H317001	情報画像工学実験 II	2.0	3 年前期火曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 15
T1H317004	情報画像工学実験 II	2.0	3 年前期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 16
T1H324001	情報画像基礎英語	2.0	3 年前期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 16
T1H014001	知識工学	2.0	3 年前期木曜 3 限	井宮 淳	情画 17
T1H322001	コンピュータグラフィックス	2.0	3 年前期木曜 4 限	津村 徳道	情画 18
T1H011001	数値計算の理論と実際	2.0	3 年前期土曜 1,2,3,4,5 限 集中	(河村 哲也)	情画 19
T1H032001	デジタル信号処理	2.0	3 年前期月曜 2 限	山口 匡	情画 19
T1H323001	OS と計算機システム	2.0	3 年前期金曜 3 限	北神 正人	情画 20
T1H320001	オプトエレクトロニクス	2.0	3 年前期金曜 4 限	尾松 孝茂	情画 21
T1H119101	写真創作実習	2.0	3 年前期金曜 5 限	(鈴木 建男)	情画 22
T1H118001	情報知的所有権セミナー	2.0	3 年前期金曜 2 限	(千旦 和也)	情画 23
T1H048001	レーザ工学	2.0	3 年後期月曜 2 限	立田 光廣	情画 23
T1H108001	生体情報システム論	2.0	3 年後期月曜 4 限	松葉 育雄	情画 24
T1H029001	データベース	2.0	3 年後期月曜 5 限	梶原 康司	情画 25
T1Z051001	工学倫理	2.0	3,4 年後期月曜 5 限	森永 良丙	情画 65
T1H327001	高分子機能材料	2.0	3 年後期火曜 1 限	小林 範久	情画 27
T1H024101	ヒューマンインタフェース	2.0	3 年後期火曜 2 限	黒岩 眞吾	情画 28
T1H331001	コンパイラとオートマトン	2.0	3 年後期火曜 5 限	堀内 靖雄	情画 29
T1H326001	プリンティング工学	2.0	3 年後期火曜 4 限	小関 健一	情画 29
T1H328001	物質センシング	2.0	3 年後期水曜 2 限	柴 史之	情画 30
T1H325001	情報画像工学実験 III	2.0	3 年後期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 31
T1H324002	情報画像基礎英語	2.0	3 年後期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 32
T1H330001	デジタル画像処理	2.0	3 年後期木曜 2 限	富永 昌二	情画 33

2009 年度 工学部情報画像工学科 A コース シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1H325004	情報画像工学実験 III	2.0	3 年後期木曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 33
T1H120001	情報通信ネットワーク	2.0	3 年後期金曜 4 限	阪田 史郎	情画 34
T1H064101	情報画像産業汎論	2.0	3 年後期金曜 5 限	伊藤 秀男	情画 35
T1H047001	画像電子工学 (平成 21 年度開講せず)	2.0	4 年		情画 36
T1H321001	画像電子デバイス (平成 21 年度開講せず)	2.0			情画 36
T1H041101	卒業研究	8.0	4 年通期集中	松葉 育雄 ^他	情画 37
T1H020001	情報画像技術史	2.0	4 年前期集中	(桑山 哲郎)	情画 37
T1H087001	分子素子基礎論	2.0	4 年前期月曜 4 限	高原 茂	情画 38
T1H089001	応用光化学	2.0	4 年前期月曜 4 限	高原 茂	情画 38
T1H110001	工業システム概論	2.0	4 年前期月曜 4 限	(鈴木 道夫)	情画 39
T1H082001	電子イメージング工学	2.0	4 年前期月曜 5 限	星野 勝義	情画 40
T1H083001	界面電子プロセス	2.0	4 年前期月曜 5 限	星野 勝義	情画 40
T1H098101	印刷材料学	2.0	4 年前期月曜 5 限	(岡山 隆之) ^他	情画 41
T1H050001	視覚工学概論 I	2.0	4 年前期水曜 4 限	矢口 博久	情画 42
T1H061001	画像システム工学実験 II	3.0	4 年前期火曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 43
T1H094001	画像材料工学実験 II	3.0	4 年前期火曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 44
T1H027001	情報工学実験 2	2.0	4 年前期火曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 44
T1H012001	計算機システム序論	2.0	4 年前期水曜 4 限	伊藤 秀男	情画 45
T1H092001	画像材料工学演習 II	2.0	4 年前期水曜 2 限	各教員	情画 46
T1H094004	画像材料工学実験 II	3.0	4 年前期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 46
T1H061004	画像システム工学実験 II	3.0	4 年前期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 47
T1H027004	情報工学実験 2	2.0	4 年前期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 48
T1H116001	情報基礎英語	2.0	4 年前期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 48
T1H042001	画像工学演習	2.0	4 年前期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 49
T1H100001	工業英語演習	2.0	4 年前期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 50
T1H036001	心理物理学	2.0	4 年前期木曜 2 限	青木 直和	情画 51
T1H115001	プログラムの設計と実現 II	2.0	4 年前期金曜 3 限	森 康久仁	情画 52
T1H114001	プログラムの設計と実現 I	2.0	4 年前期木曜 2 限	堀内 靖雄	情画 53
T1H058001	画像システム工学演習 I	2.0	4 年前期火曜 2 限	堀内 隆彦	情画 53
T1H091001	画像材料工学演習 I	2.0	4 年前期火曜 2 限	堀内 隆彦	情画 54
T1H115002	プログラムの設計と実現 II	2.0	4 年前期金曜 5 限	森 康久仁	情画 55
T1H121001	計算図学	2.0	4 年前期木曜 4 限	津村 徳道	情画 56
T1H097001	広報媒体論	2.0	4 年前期木曜 5 限	(左近 勝利)	情画 56
T1H059001	画像システム工学演習 II	2.0	4 年前期水曜 2 限	各教員	情画 57
T1H074101	基礎物理化学 I	2.0	4 年前期金曜 2 限	星野 勝義	情画 58
T1H004001	情報数学 1	2.0	4 年前期金曜 4 限	岸本 渡	情画 59
T1H069001	リモートセンシング工学	2.0	4 年前期金曜 2 限	久世 宏明 ^他	情画 59
T1H018001	オペレーティング・システム	2.0	4 年前期金曜 3 限	北神 正人	情画 60
T1H049001	画像光エレクトロニクス	2.0	4 年前期金曜 4 限	尾松 孝茂	情画 61
T1H119001	画像制作実習	2.0	4 年前期金曜 5 限	(鈴木 建男)	情画 61

2009 年度 工学部情報画像工学科 A コース シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
T1H038001	ソフトウェア設計論	2.0	3,4 年前期木曜 2 限	大澤 範高	情画 62
T1H106001	メディアアート	2.0	4 年後期月曜 3 限	(串山 久美子)	情画 63
T1H052001	結像光学基礎	2.0	4 年前期月曜 4 限	椎名 達雄	情画 63
T1H051001	視覚工学概論 II	2.0	4 年後期月曜 4 限	富永 昌二	情画 64
T1Z051001	工学倫理	2.0	3,4 年後期月曜 5 限	森永 良丙	情画 65
T1H085001	画像高分子物性論	2.0	4 年後期火曜 1 限	小林 範久	情画 66
T1H078101	画像記録材料	2.0	4 年後期火曜 1 限	小林 範久	情画 67
T1H124001	マルチメディア情報処理	2.0	4 年後期火曜 2 限	今泉 貴史	情画 68
T1H008001	情報数学 2	2.0	4 年後期火曜 2 限	松葉 育雄	情画 69
T1H017001	オートマトン理論	2.0	4 年後期火曜 5 限	堀内 靖雄	情画 69
T1H066201	画像解析	2.0	4 年後期火曜 4 限	(犬井 正男)	情画 70
T1H112001	印刷工学	2.0	4 年後期火曜 4 限	小関 健一	情画 71
T1H124002	マルチメディア情報処理	2.0	4 年後期火曜 4 限	今泉 貴史	情画 71
T1H076001	基礎界面化学	2.0	4 年後期火曜 5 限	(松村 英夫)	情画 72
T1H080001	画像物理化学	2.0	4 年後期水曜 2 限	柴 史之	情画 73
T1H075001	基礎光化学	2.0	4 年後期水曜 1 限	久下 謙一	情画 74
T1H046001	写真システム基礎論	2.0	4 年後期水曜 2 限	小林 裕幸	情画 75
T1H095201	画像材料工学実験 III	4.0	4 年後期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 76
T1H061201	画像システム工学実験 III	4.0	4 年後期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 76
T1H072001	卒業研究 I	4.0	4 年後期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 77
T1H035001	情報工学実験 3	2.0	4 年後期水曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 77
T1H116002	情報基礎英語	2.0	4 年後期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 78
T1H100002	工業英語演習	2.0	4 年後期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 79
T1H003001	画像工学概論	2.0	4 年後期水曜 5 限	北村 孝司	情画 80
T1H042002	画像工学演習	2.0	4 年後期水曜 4 限	(太田 真智子)	情画 81
T1H123001	情報と社会	2.0	4 年後期水曜 5 限	黒岩 眞吾	情画 82
T1H007001	画像工学各論	2.0	4 年後期木曜 4 限	宮川 信一	情画 82
T1H021001	計算機ハードウェア	2.0	4 年後期木曜 4 限	宮川 信一	情画 83
T1H056001	デジタル画像設計論	2.0	4 年後期木曜 2 限	富永 昌二	情画 83
T1H035004	情報工学実験 3	2.0	4 年後期木曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 84
T1H061204	画像システム工学実験 III	4.0	4 年後期木曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 85
T1H095204	画像材料工学実験 III	4.0	4 年後期木曜 3,4,5 限	伊藤 秀男	情画 85
T1H013001	回路理論 1	2.0	4 年前期木曜 4 限	北神 正人	情画 86
T1H093004	画像材料工学実験 I	3.0	4 年後期金曜 3,4,5 限	矢口 博久	情画 87
T1H060004	画像システム工学実験 I	3.0	4 年後期金曜 3,4,5 限	矢口 博久	情画 87
T1H016001	情報工学実験 1	2.0	4 年後期金曜 3,4,5 限	矢口 博久	情画 88
T1H067001	画像複製論	2.0	4 年後期土曜集中	(田島 譲二)	情画 89
T1H332001	デジタル映像システム	2.0	4 年後期土曜集中	(黒沢 俊晴)	情画 89
T1H070001	画像電子機器工学	2.0	4 年後期土曜集中	(仲谷 文雄)	情画 90

T1H308001

授業科目名：人間の情報処理入門
 科目英訳名：Introduction to Human Information Processing
 担当教員：矢口 博久
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年前期水曜 4 限
 授業コード：T1H308001
 講義室：工 17 号棟 111 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 145

[授業概要] 人間の情報処理について、主に視覚に関わる心理物理実験と、網膜及び大脳視覚野の各部位での情報処理過程モデルを対応づけながら、空間特性、時間特性、運動視、立体視、色覚の諸機能について概説する。

[目的・目標] 情報画像工学に関連する視覚の基礎特性の理解、人間の知覚特性の評価、研究方法の理解、およびそれらを通して複雑な現象から本質を捉える能力の鍛練を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 視覚とはなにか ? 視覚理解の本質
2. 視覚とはなにか ? 視覚理解の方法
3. 眼球の構造 ? 眼球光学系と網膜
4. 眼球の構造 ? 視力と結像
5. 光受容細胞と標本化
6. 暗順応, 明順応と光受容細胞の応答
7. 空間特性と網膜の細胞
8. 周辺視と網膜の不均一
9. 視覚系の空間周波数特性
10. 形状知覚と周波数特性
11. 大脳視覚野の空間周波数特性
12. 時間周波数特性
13. 試験
14. 試験の解説と時空間特性のまとめ
15. 立体視, 運動視, 色覚

[キーワード] 視覚情報処理, 網膜, 大脳視覚野

[評価方法・基準] 6 回のレポートと試験の成績をそれぞれ 50 点満点で採点して、合計点が 60 点以上を合格とする。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1Y016001

授業科目名：造形演習
 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.)
 担当教員：植田 憲
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：前期火曜 5 限
 授業コード：T1Y016001
 講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 「工学」とは「ものづくり」であり、「ものづくり」とは「造形」である。「造形演習」は、いくつかの「造形」に関する課題を通して、「工学=ものづくり」に対する関心を鼓舞し、学生のひとりひとりが有する造形の資質を覚醒する。

[目的・目標] 本演習の具体的な目的は、以下のようである。(1)「学び取る」姿勢を培う。(2)多面的な観察能力を養う。(3)多様な解の存在を認識する。(4)プレゼンテーション能力を涵養する。「造形演習」の4つの課題のひとつひとつには、限られた時間のなかで精一杯にチャレンジし、満足するまで成し遂げることが求められている。頭脳と手とを連動させ、「手を動かし、汗をかき、想いをめぐらし、創る」まさに「手汗想創」を体感する。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第1課題:「鉛筆による精密描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題:「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の講評
8. 中間発表会
9. 第3課題:「卓上ランプシェードの制作」
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題:「飛行体の造形」
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索, デザイン, 手汗想創, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1Y016002

授業科目名: 造形演習 科目英訳名: Design Aesthetics(Lab.) 担当教員: 田内 隆利 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1Y016002	開講時限等: 前期火曜 5 限 講義室: 創造工学センター
---	----------------------------------

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通して修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第1課題:「鉛筆による手の描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の演習・講評
5. 第2課題:「三面図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習・講評
7. 第3課題:「紙サンダルの制作」
8. 第3課題の演習: 調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション

9. 第 3 課題の演習：制作
10. 第 3 課題の発表
11. 第 4 課題：「ゴム動力車の制作」
12. 第 4 課題の演習：調査結果に基づく制作物のプレゼンテーション
13. 第 4 課題の演習：制作
14. 第 4 課題の発表
15. 展示会

[評価方法・基準]

[備考] 創造工学センターはサンダルやヒールの高い靴厳禁。

T1Y016003

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：玉垣 庸一, 下村 義弘 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016003	開講時限等：前期火曜 5 限 講義室：工 2-アトリエ (2-601)
---	--

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016004

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：福川 裕一 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016004	開講時限等：前期火曜 5 限 講義室：工 15 号棟 110 教室
--	--------------------------------------

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

[評価方法・基準]

T1Y016005

授業科目名：造形演習 科目英訳名：Design Aesthetics(Lab.) 担当教員：UEDA EDILSON SHINDI 単位数：2.0 単位 授業コード：T1Y016005	開講時限等：前期火曜 5 限 講義室：工 17 号棟 213 教室
--	--------------------------------------

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 演習

[目的・目標] 工学的手段による問題意識の結果が形となって現われる場合、よいまとまりを意識して形造りを行うか、意識せずに形造りを行うかでは結果に大きな開きが生じる。よいまとまりを示す形とは何かを演習を通じて修得する。具体的には、演習計画に示す各項目を各担当教員の専門領域の立場から課題を設定し、演習を行う。

[授業計画・授業内容]

1. 全体ガイダンスおよびクラス分け
2. 第1課題：「鉛筆による精密描写」
3. 第1課題の演習
4. 第1課題の講評
5. 第2課題：「展開図に基づいた立体物の描写」
6. 第2課題の演習
7. 第2課題の講評
8. 中間発表会
9. 第3課題：「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、自由に形を創ろう
10. 第3課題の演習
11. 第3課題の講評
12. 第4課題：「水」「火」「土」「風」のテーマから一つを選び、新しいデザインコンセプトを作成する
13. 第4課題の演習
14. 第4課題の講評
15. 展示会

[キーワード] 観察・思索，デザイン，手汗想創，プレゼンテーション

[教科書・参考書] 特にありません。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、作品・プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] 特にありません。

[履修要件] 特にありません。

[備考] 特にありません。

T1H307001

授業科目名：画像作り実習

科目英訳名：Practice of Image Making

担当教員：久下 謙一

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期木曜 3,4 限隔週 1,3

授業コード：T1H307001, T1H307002

講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

2007 年入学生：専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 50 人

[授業概要] とまかく色々な画像を、自分の手を動かして目の前で作ってみることを主眼とする。体験を主とし、観察も含める。どこに興味を持ったかを自分の中で明らかにする。

[目的・目標] 自分の手で画像技術の一端に触れ、体験することにより、技術体系の奥深さを認識して、今後の勉学の方向をつかみ取る。その体験の中から良い画像にはなにが必要かを理解し、もの作りの一端として画像を作ることについての造詣を深めることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 隔週で実施する。具体的スケジュールは初回のガイダンス時に説明する。第3回から第6回は全体を3班に分けて順に行う。

1. ガイダンス
2. 拡大観察
3. カラー写真
4. カラー印刷

5. エレクトロクロミズム
6. 樹脂刷版
7. 画像作りコンテスト

[キーワード] もの作り、画像作成、観察、写真、印刷、色、表示素子

[教科書・参考書] 特になし

[評価方法・基準] 体験学習であるから、まず出席することが必要である。出席点に、参加意欲、授業態度、報告書を含めて評価する。

T1Z051001

授業科目名： 工学倫理 科目英訳名： Engineering Ethics 担当教員： 森永 良丙 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1Z051001	開講時限等： 3,4 年後期月曜 5 限 講義室： 105 講義室 (「105 講義室」は法経学部棟の講義室である。)
--	---

科目区分

2006 年入学生: 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K3:都市環境システム学科 (先進科学), T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学), T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2007 年入学生: 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J:都市環境システム学科, T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K8:デザイン工学科建築系 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 工学部 2~4 年次 (学科により指定あり)。

[授業概要] 工学は科学・技術のさまざまな成果を活かし、我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学問である。しかし、その使用の方向、利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ、ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では、社会との関係における工学者の使命、規範、役割、権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において、正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 実際の開講時には変更になる可能性があります。

1. ガイダンス (10 分) 倫理とは (高橋 久一郎: 千葉大学文学部)
2. 工学倫理の特徴 (忽那 敬三: 千葉大学文学部)
3. ネットワーク倫理 (全 へい東: 千葉大学総合メディア基盤センター)
4. 資源エネルギー消費と環境倫理 (町田 基: 千葉大学総合安全衛生管理機構)
5. 企業活動と知的財産権 (渡辺 隆男 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
6. 技術者の知的所有権等財産的権利 (1) (高橋 昌義 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
7. 技術者の知的所有権等財産的権利 (2) (高橋 昌義 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
8. 組織における工学者の倫理 (中込 秀樹: 千葉大学大学院工学研究科)
9. 職能倫理としての工学倫理 (土屋 俊: 千葉大学文学部)
10. 生命倫理 (田村 俊世: 千葉大学大学院工学研究科)
11. 製造物責任 (PL) 法 (1) (小賀野 晶一: 千葉大学法経学部)
12. 製造物責任 (PL) 法 (2) (小賀野 晶一: 千葉大学法経学部)
13. 安全とリスク (1) (篠田 幸信: NTT アドバンステクノロジー社)

14. 安全とリスク(2)(篠田 幸信:NTT アドバンステクノロジー社)

15. 千葉大学ロボット憲章(野波 健蔵:千葉大学大学院工学研究科)まとめ(10分)

[キーワード] 工学者の使命, モラル, 義務, 規範, 技術者倫理

[評価方法・基準] 毎回, 講義の最後に小テストを実施し, その結果を踏まえて判定します。12回以上出席しないと, 単位認定できませんので注意してください。

[履修要件] 各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし, 表示がない場合は各学科教育委員に確認してください。

[備考] 講師の都合により順番, 内容に関して変更する場合があります。1回目の授業の初めに行うガイダンスに必ず出席して下さい。

T1H311002

授業科目名: 光物性基礎

科目英訳名: Introduction to Optical Properties of Solid Materials

担当教員: 久下 謙一

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3年後期水曜1限

授業コード: T1H311002

講義室: 工9号棟206教室

科目区分

2007年入学生: 専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科Aコース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 光の性質と、光と物質の相互作用について理解する。その基礎となる光の基礎的性質と、光の関係する物質の構造について学習する。

[目的・目標] マテリアル基礎科目の第二段階として、光が物質と相互作用するときの光物性の原理や応用性について理解を深め、画像の認識・記録などのプロセスの理解の基礎とする。

[授業計画・授業内容] 以下の順序に従い、授業を進める。毎回出席を兼ねた宿題を課す。宿題は翌週返却し、解説を加える。

1. 1. 光の本質、 1.1. 光とは: 光の本質についての論争 1.2. 波動としての説明: Maxwell の電磁波理論
2. 1.3. 波動としての光の性質 波長(振動数)、振幅・位相・偏光、
3. 1.4. 粒子としての説明: 光量子仮説、 1.5. 波動と粒子の二重性: 粒子の波動性
4. 1.6. 光の本質のまとめ 2. 電子の軌道とエネルギー準位、 2.1. 水素原子の軌道と発光スペクトル、
5. 2.2. 量子力学と Schrodinger 方程式の解、 2.3. 原子の軌道と水素原子スペクトル、
6. 2.4. 分子の軌道と化学結合、 2.5. 固体の軌道とバンド構造エネルギーの吸収
7. 3. 光の吸収、 3.1. 物体に入射した光、 3.2. 吸光度と Lambert-Beer の法則
8. 3.3. 光の吸収のメカニズム、 3.4. 吸収スペクトル、 3.5. 金属による反射
9. 3.6. 物体の色、 3.7. 視覚と色
10. 4. 光と物質との相互作用、 4.1. 光による物質の変化の種類、 4.2. 相互作用の過程
11. 4.3. 光化学の諸法則、 4.4. 光化学反応の反応速度
12. 4.5. 分子の光化学、 4.6. 結晶の光化学
13. 5. 発光、 5.1. 発光のメカニズム、 5.2. 放射熱によるもの
14. 5.3. 放電発光によるもの、 5.4. 電界発光によるもの
15. 試験

[キーワード] 電磁波、光量子、スペクトル、軌道、光学定数、電子励起、光電効果、光化学

[教科書・参考書] 教科書は特に指定しない。授業ノートを中心とする。高校で使用した物理と化学の教科書をすぐに見られるようにしておくように。

[評価方法・基準] 宿題と出席をもとに平常点を付ける。成績は平常点と試験点の平均点と、試験のみの点を比較し、高い方の点数で評価する。

[関連科目] 基礎化学 A の内容を充分理解しておくように。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。2008 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H303002

授業科目名： 情報画像とマテリアル
 科目英訳名： Material Science for Information and Imaging
 担当教員： 宮川 信一
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： T1H303002
 開講時限等： 3 年後期木曜 4 限
 講義室： 工 9 号棟 106 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 情報技術および画像技術の基盤となる技術の原理とそれらを支える材料科学の基礎に関して学ぶ

[目的・目標] 材料科学の基礎と情報および画像技術を支える材料物性を理解する。

[授業計画・授業内容]

1. はじめに (講義のガイダンス・イントロダクション) 複写技術 / 電子写真 (1)
2. 電子写真 (2)
3. 電子写真 (3) / ディスプレイへの応用
4. 小テスト / ディスプレイ
5. 液晶 (1)
6. 液晶 (2)
7. 小テスト / 電池と電極反応
8. 電極反応 / エレクトロクロミー
9. 小テスト / 感光性樹脂 (1)
10. 感光性樹脂 (2)
11. 感光性樹脂 (3) / 磁気記録と光記録
12. 小テスト / 光記録 (2)
13. 光記録 (3)
14. 小テスト / 未来の情報画像技術と材料
15. 期末試験

[キーワード] 情報画像, 画像, 画像材料, 材料科学, 情報技術, 画像技術

[教科書・参考書] 教科書は特になし。参考書となる書籍は、講義中に紹介する。

[評価方法・基準] 出席と小テスト、期末試験で評価

[備考] 小テストの開催時期、開催回数は授業進度により変更する場合がある。 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H063101

授業科目名： インターンシップ
 科目英訳名： Practical Training in Factory
 担当教員： 伊藤 秀男
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： T1H063101
 開講時限等： 3 年通期集中
 講義室： 未定 (工学部)
 (通常の授業に支障のない範囲で行う。)

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実習

[受入人数] 原則として何人でもよい。

[目的・目標] 産業界において、情報画像工学科で開講している科目に関係する技術的内容について実習を行い、学習内容と現実との対応、仕事の内容や方法などの実学を体得する。

[授業計画・授業内容] 産業界において、情報画像工学科で開講している科目に関係する技術的内容について5日間以上、合計30時間以上の実習を行うことを原則とする。

[評価方法・基準] 評価方法は、本人のレポート(様式1の書類)と受け入れ側担当者からの報告書(様式2の書類)により行う。基準は、上記の「授業計画・授業内容」に示す内容を行えば合格とする。

[履修要件] ・通常の講義に支障が無い日程の範囲で行うこと。・実施前に、上記の「評価方法・基準」を満たすかどうかを受け入れ側企業等へ確認する、もしくは担当教員へ相談すること。・受入れ企業等へ提出する書類(様式2(封筒あり)と担任からの依頼文(様式3)が入った袋)は、実施開始までに受け入れ側企業等の担当者へ学生自身が渡すこと。

[備考] インターンシップ実施先は、多くの企業等が公募しており、大学へも案内が来ているので、web や学務係、学科の掲示板で各自で見つけること。どうしても適切な企業が見つからないが実施したい場合には、担任に相談すること。履修登録をしてもインターンシップ先が見つからない場合、成績が「不可」となるので、基本的に履修登録はしません。成績は追加で報告します。

T1H019001

授業科目名：情報理論(情報画像)

科目英訳名：Information Theory

担当教員：須鎗 弘樹

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期月曜 3 限

授業コード：T1H019001

講義室：工 19 号棟 115 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 140 名

[受講対象] 科目等履修生 履修可

[授業概要] 情報伝達過程における効率性と信頼性の限界を定量的に見極めることができる、シャノン(創始者の名前)の情報理論について、講義する。

[目的・目標] シャノンの2大符号化定理を理解することを目的とする。具体的には、情報源符号化(データ圧縮)と通信路符号化(誤り訂正符号化)の問題、様々な情報量、情報源と通信路のモデル、情報源符号化定理、具体的な情報源符号化法、通信路符号化定理、符号の誤り訂正能力、具体的な通信路符号化法(誤り検出訂正符号)などについて詳述する。

[授業計画・授業内容]

1. 情報理論の歴史的背景・学問的位置づけ
2. 情報理論で習う情報源符号化と通信路符号化の通信における意味とそれらの具体例
3. 情報源符号化を定量的に表すための、エントロピーなどの基本的な情報量の導入
4. 情報源符号化(データ圧縮)を実現する符号化に要請される3つの条件とデータ圧縮の限界を示す情報源符号化定理
5. 情報源符号化(データ圧縮)の基本的かつ具体的な符号化法であるシャノン・ファノ符号化とハフマン符号化
6. 情報源符号化(データ圧縮)のより実際的な符号化法であるランレングス符号化とユニバーサル符号化
7. 情報源符号化に関する試験(中間試験)
8. 通信路符号化(誤り訂正符号化)のための、通信路のモデル・誤りの種類・誤り検出訂正のための冗長性の利用の導入
9. 通信路符号化(誤り訂正符号化)の定量化のための、符号空間・誤り率・通信路モデルの数学的表現の導入
10. 通信路符号化(誤り訂正符号化)の定量化のための、条件付エントロピー・相互情報量・通信路容量などの情報量の導入
11. 通信路符号化定理とその意味(重要性)
12. 通信路符号化(誤り訂正符号化)の基本的かつ具体的な符号化法であるパリティ検査符号とハミング符号
13. ハミング符号の誤り検出・訂正方法・符号化と復号化の論理回路
14. 線形符号の応用上重要な具体例である巡回符号の、多項式表現・符号の生成法・誤り検出・訂正法

15. 通信路符号化に関する試験（期末試験）

[キーワード] エントロピー，情報源符号化，通信路符号化

[教科書・参考書] マルチメディア時代の情報理論（コロナ社）

[評価方法・基準] 出席回数 11 回以上の条件のもと，中間試験と期末試験の平均点で成績を評価する．

[履修要件] 確率論の基礎を修得していることが望ましい．

T1H088001

授業科目名：光機能材料

科目英訳名：Advanced Materials for Imaging

担当教員：高原 茂

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期月曜 4 限

授業コード：T1H088001

講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20（T1H:情報画像工学科 A コース）

[授業の方法] 講義

[受入人数] 80

[受講対象] 自学部他学科生 履修可，科目等履修生 履修可；情報画像工学科 3 年次レベルを主に対象とする。画像科学科 3 年次を主に対象とする同一名称科目と同じ講義となるので履修申請の際には注意すること。

[授業概要] 光励起された物質はそのエネルギーをいろいろな形で利用できる。光励起状態からの電子移動やエネルギー移動現象を利用した光材料の概念を整理する。また、フォトレジスト、光記録材料、ディスプレイ材料など、さまざまな光機能材料の応用例を、物質と光の相互作用から分類し、その材料設計について考察する。

[目的・目標] 光や電子線などエネルギーと物質の相互作用で発現する物質変化を整理し、それらを情報材料や画像材料・デバイスへ応用するための設計と評価について理解する。光が関わる相互作用と材料の機能発現の機構、材料化の方法などについて知識を得るとともに、これらの関わりから、光機能材料と情報画像技術や産業へのつながりを理解する。

[授業計画・授業内容] 前半は基礎的な項目から応用を、後半は応用から基礎的な項目を見渡す内容とし、各回以下のように進める。

1. はじめに（光化学の応用と融合、光機能材料の構成と組立）
2. 光の吸収とこれを制御する材料と分子
3. 光励起分子の緩和と発光材料
4. 光反応とスピン
5. 光エネルギーの移動と光劣化を制御する材料
6. 光誘起電子移動反応と増感反応への応用
7. 中間試験
8. さまざまな光反応と応用
9. 偏光・旋光性を制御する材料とディスプレイ
10. 光伝播を制御する材料と情報デバイス
11. フォトポリマーと電子デバイス
12. 光機能高分子による微細画像の形成と応用
13. 光造形材料とその反応機構
14. 光記録材料とその分子設計
15. 期末試験

[キーワード] 光化学、光吸収、光反射、光劣化、レーザー、光硬化、光触媒、発光、励起錯体、エネルギー移動、電子移動、ディスプレイ材料、印刷記録材料、光記録材料

[教科書・参考書] 授業の資料（PDF）を Web に用意する。井上晴夫ら「光化学 I」（丸善），R. Suppan「Chemistry and Light」（The Royal Society of Chemistry），情報記録 - 化学的アプローチ - 日本化学会編，小門 宏，山岡亜夫著（大日本図書），N. J. Turro, "Modern Molecular Photochemistry", Benjamin-Cummings (1978)。

[評価方法・基準] 11/15 以上の出席、授業レポート：中間試験（記述中心）：期末試験（記述中心）の合計点 = 25 : 35 : 40

[備考] 授業の資料 (PDF) を Web からダウンロードする方法について初回の講義時に説明する。

T1H319001

授業科目名： 先端材料 科目英訳名： Advanced Materials 担当教員： 星野 勝義 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H319001	開講時限等： 3 年前期月曜 5 限 講義室： 工 9 号棟 106 教室
--	--

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 未だ実用化には至っていないが、今後実用化が期待される先端材料を紹介する。情報画像工学分野を、エネルギー的側面、インターフェースとして、そして環境的側面から支援する最新の材料を取り上げる。

[目的・目標] 今日の材料研究の分野は大きな変革期を迎え、ナノテクノロジーが切り開く新しい世界形成されつつある。画像工学及び情報工学の分野もその例外ではなく、先端材料に立脚した新しい分野に変貌しようとしている。ここでは主に、情報画像工学に関連する先端材料を把握し、その基礎を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 先端材料を学ぶための基礎、有機物を用いた新しいディスプレイ、電子ペーパー、ナノワイヤー・ナノチューブ、先端材料としてのトナー、光触媒、新型太陽電池などを予定している。“先端”の分野であるので、内容は固定せず、最新知識の導入がなされるように配慮する。従って、以下の授業計画（題目や回数）はあくまで暫定的なものであり、変更する場合がある。

1. ガイダンス
2. 先端材料を学上での基礎 1
3. 先端材料を学上での基礎 2
4. 先端材料を学上での基礎 3
5. 発光ダイオード
6. 有機 EL ディスプレイ
7. 電子写真 - 古くて新しい先端材料
8. 電子ペーパー 1
9. 電子ペーパー 2
10. 光触媒 1 - 現代のキーマテリアル
11. 光触媒 2 - 新型太陽電池
12. ナノテクノロジー概観
13. ナノテクノロジー - 電界放出ディスプレイ (FED)
14. 先端材料のこれから
15. 期末試験

[キーワード] 半導体、有機 EL ディスプレイ、太陽電池、電子ペーパー、ナノワイヤー、ナノチューブ、光触媒、新型トナー、発光ダイオード

[教科書・参考書] 特になし。授業の都度プリントを配布するので、重要事項は書き込むこと。

[評価方法・基準] 最終回に行う期末試験の成績により評価する。多くの設問が課せられるので、各回の復習をし、関連する書籍を読むことが望ましい。

[履修要件] 特になし。

T1H319002

授業科目名： 先端材料 科目英訳名： Advanced Materials 担当教員： 星野 勝義 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H319002	開講時限等： 3 年前期木曜 5 限 講義室： 工 9 号棟 106 教室
--	--

科目区分

2007 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 未だ実用化には至っていないが、今後実用化が期待される先端材料を紹介する。情報画像工学分野を、エネルギー的側面、インターフェースとして、そして環境的側面から支援する最新の材料を取り上げる。

[目的・目標] 今日の材料研究の分野は大きな変革期を迎え、ナノテクノロジーが切り開く新しい世界形成されつつある。画像工学及び情報工学の分野もその例外ではなく、先端材料に立脚した新しい分野に変貌しようとしている。ここでは主に、情報画像工学に関連する先端材料を把握し、その基礎を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 先端材料を学ぶための基礎、有機物を用いた新しいディスプレイ、電子ペーパー、ナノワイヤー・ナノチューブ、先端材料としてのトナー、光触媒、新型太陽電池などを予定している。“先端”の分野であるので、内容は固定せず、最新知識の導入がなされるように配慮する。従って、以下の授業計画(題目や回数)はあくまで暫定的なものであり、変更する場合がある。

1. ガイダンス
2. 先端材料を学上での基礎 1
3. 先端材料を学上での基礎 2
4. 先端材料を学上での基礎 3
5. 発光ダイオード
6. 有機 EL ディスプレイ
7. 電子写真 - 古くて新しい先端材料
8. 電子ペーパー 1
9. 電子ペーパー 2
10. 光触媒 1 - 現代のキーマテリアル
11. 光触媒 2 - 新型太陽電池
12. ナノテクノロジー概観
13. ナノテクノロジー - 電界放出ディスプレイ (FED)
14. 先端材料のこれから
15. 期末試験

[キーワード] 半導体、有機 EL ディスプレイ、太陽電池、電子ペーパー、ナノワイヤー、ナノチューブ、光触媒、新型トナー、発光ダイオード

[教科書・参考書] 特になし。授業の都度プリントを配布するので、重要事項は書き込むこと。

[評価方法・基準] 最終回に行う期末試験の成績により評価する。多くの設問が課せられるので、各回の復習をし、関連する書籍を読むことが望ましい。

[履修要件] 特になし。

T1H025001

授業科目名: パターン認識 (情報画像)

(千葉工大開放科目)

科目英訳名: Pattern Recognition

担当教員: 津村 徳道

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年前期火曜 2 限

授業コード: T1H025001

講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2007 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 情報工学の幅広い分野で必要とされ、すでに多くの技法が実用化されているパターン認識の基礎理論と手法を具体例を交えてできるだけ平易に解説する。

[目的・目標] パターン認識の過程と特徴抽出の大切さを学ぶ。パターン認識に関する数学的な手順を含めた基礎知識を習得する。統計的パターン認識の考え方と手法を理解する。学習の概念と学習アルゴリズムを学ぶ。特徴空間、特徴分析、特徴変換など特徴の取り扱い方を学ぶ。パターン認識の実際問題を理解し、応用力を身につける。

[授業計画・授業内容]

1. パターン認識とは

2. 特徴ベクトルと特徴空間
3. 学習と識別関数
4. ニューラルネットワークとの関係
5. 誤差評価に基づく学習
6. 識別部の設計 (1)
7. 識別部の設計 (2)
8. 特徴の評価とベイズ誤り確率 (1)
9. 特徴の評価とベイズ誤り確率 (2)
10. 特徴空間の変換
11. 部分空間法
12. 学習アルゴリズムの一般化
13. 学習アルゴリズムとベイズ決定則
14. パターン認識の実例
15. 期末テスト

[キーワード] 統計的パターン認識, ベイズ識別, 学習, ニューラルネットワーク

[教科書・参考書] 教科書: わかりやすいパターン認識, オーム社, 2800円, ISBN4-274-1349-1

[評価方法・基準] 出席状況, レポート, 期末試験を総合して評価する. 5.9点以下は不可.

[履修要件] 線形代数と確率統計を履修していることが望ましい.

T1H317001

授業科目名: 情報画像工学実験 II

科目英訳名: Laboratory Work in Information and Image Sciences II

担当教員: 伊藤 秀男

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 3 年前期火曜 3,4,5 限

授業コード: T1H317001, T1H317002, T1H317003 講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

2007 年入学生: 専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実験

[受講対象] 情報画像工学科の学生

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計

13. プロセッサの基礎

14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 情報画像工学科以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H317004

授業科目名：情報画像工学実験 II

科目英訳名：Laboratory Work in Information and Image Sciences II

担当教員：伊藤 秀男

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期水曜 3,4,5 限

授業コード：T1H317004, T1H317005, T1H317006
講義室：工 情報画像学科 実験室

科目区分

2007 年入学生：専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実験

[受講対象] 情報画像工学科の学生

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する。

[履修要件] 情報画像工学科以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H324001

授業科目名：情報画像基礎英語

科目英訳名：

担当教員：(太田 真智子)

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期水曜 4 限

授業コード：T1H324001
講義室：工 17 号棟 215 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？ その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？ 自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？ 強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？ 英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？ 英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？ これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 情報画像基礎英語はどこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、工業英語、科学英語 自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】 推奨サブテキスト：コウビルド 英英辞典改訂第 5 版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H014001

授業科目名： 知識工学	
科目英訳名： Knowledge Engineering	
担当教員： 井宮 淳	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3 年前期木曜 3 限
授業コード： T1H014001	講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース) , 専門選択 F30 (T1L:メディカルシステム工学科)

[授業の方法]

[目的・目標] 計算機が利用出来る知識表現法や推論手法について、基礎的な学習を行う。各手法がどのような課題の解決に向いているのかという点の理解及び身の周りに知識工学により解決しうる問題はないかという課題発見能力の訓練を本授業の目的とする。レポート提出第 1 回課題“ 機械や計算機が知的とはどのようなことか ”第 2 回課題“ 知識工学手法で解決したい自分の課題と解決法の具体的提案 ”2 回。

[授業計画・授業内容] 1. 知識工学とは 2. 知識工学の応用 3. 問題解決 4. ブラインド探索 5. ヒューリスティック探索 6. 知識表現 7. ルールモデル(プロダクションシステム) 8. フレームシステム 9. 意味ネットワーク 10. 命題論理 11. 述語論理 12. 推論 13. 機械学習 14. 分散人工知能・進化的計算 15. 期末試験

[教科書・参考書] 参考書：小林重信 “知識工学” 人工知能シリーズ 10、昭晃堂

[評価方法・基準] レポート 20%，演習 20%，中間試験 30%，試験 30%

[備考] 成績は、2 回のレポートと期末試験を等しく評価する。

T1H322001

授業科目名： コンピュータグラフィックス

(千葉工大開放科目)

科目英訳名：

担当教員： 津村 徳道

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 3 年前期木曜 4 限

授業コード： T1H322001

講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] コンピュータグラフィックスの基礎から応用までを幅広く、教科書を用いて概説するとともに、情報画像工学科の学生にとって重要な事項は特に深く解説する。また、受講人数にもよるが POV - Ray を用いた演習を行う。

[目的・目標] 現実の世界を計算機の世界の中で再現するコンピュータグラフィックスの分野は、数学、物理など様々な科学や工学の分野を取り込んで急速に成長している。講義では、その躍動を伝えとともに、新しいことに恐れず積極的に取り入れる姿勢を学んでもらいたい。また、コンピュータグラフィックスという応用を通して、基礎学問の重要性を学び、持続的に成長する人材の育成を目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 講義概要，CG 最新情報，デジタルカメラモデル
2. 座標変換
3. モデリング (1)
4. モデリング (2)
5. レンダリング (1)
6. レンダリング (2)
7. レンダリング (3)
8. 演習 (1) POV - Ray
9. 演習 (2) POV - Ray
10. アニメーション
11. 画像処理
12. 画像処理
13. イメージベースレンダリング
14. CG システム
15. 試験

[教科書・参考書] 受講する場合は 2 回目より下記の教科書を用意した上で聴講すること。コンピュータグラフィックス，定価 3,360 円，ISBN 4-906665-48-9 B5 版 フルカラー 352 ページ，財団法人 画像情報教育振興協会

[評価方法・基準] 試験成績，演習課題評価，授業参加評価などを総合して評価

授業科目名： 数値計算の理論と実際
 科目英訳名： Numerical Computation Theory and Applications
 担当教員： (河村 哲也)
 単位数： 2.0 単位 開講時限等： 3 年前期土曜 1,2,3,4,5 限集中
 授業コード： T1H011001, T1H011002, 講義室： 工 2 号棟 201 教室
 T1H011003, T1H011004,
 T1H011005

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 数値計算法の初歩をやさしく講義する。また簡単な実習も行う。

[目的・目標] 科学技術計算に必須な数値計算法の基礎理論について講述する。また実際にプログラムを組んで実行し理論ばかりではなく応用できるようにする。なお、特に工学上重要な微分方程式の数値解法に重点をおく。

[授業計画・授業内容]

1. 数値計算法序論
2. 非線形方程式の解法その 1
3. 非線形方程式の解法その 2
4. 連立一次方程式の解法その 1
5. 連立一次方程式の解法その 2
6. 関数の離散補間その 1
7. 関数の離散補間その 2
8. 数値微分と数値積分
9. 常微分方程式の解法その 1
10. 常微分方程式の解法その 2
11. 差分法による偏微分方程式の解法その 1
12. 差分法による偏微分方程式の解法その 2
13. 有限要素法
14. 境界要素法
15. 試験

[教科書・参考書] 参考書として数値計算の理論と実際、河村哲也著、科学技術出版 (2 0 0 0 年)

[評価方法・基準] 期末試験とレポートで評価する

[関連科目] 大学 1, 2 年の線形代数と微積分学

[備考] 平成 21 年度の集中講義の日程は 7/18,7/25,8/1(いずれも土曜、1-5 時限) です。

授業科目名： デジタル信号処理 (千葉工大開放科目)
 科目英訳名： Digital Signal Processing
 担当教員： 山口 匡
 単位数： 2.0 単位 開講時限等： 3 年前期月曜 2 限
 授業コード： T1H032001 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可;3 年次

[授業概要] デジタル技術の発展とともにデジタル信号処理は非常に多くの分野で必須の技術となっている。本講義では、デジタル信号処理の基礎に重点を置き、理論から応用までの広い範囲について説明する。これらは高度情報化社会では欠かせない重要な内容である。

[目的・目標] 最初に、デジタル信号処理の基礎的事項および高速フーリエ変換などについてくわしく述べる。次に、アナログおよびデジタルフィルタの基礎を紹介する。また、デジタル音声信号処理（音声生成過程のモデル、線形予測分析方式）、デジタル画像処理（画像の標本化と量子化、画像の数学モデル、デジタル画像の強調、デジタル画像の圧縮）などについて説明する。

[授業計画・授業内容] 離散フーリエ変換（DFT）、高速フーリエ変換（FFT）、アナログフィルタ、振幅特性、位相特性、デジタルフィルタ、FIRフィルタ、IIRフィルタ、音声生成過程、線形予測分析方式、画像の標本化、画像の量子化、画像の数学モデル、画像の強調、画像の圧縮

1. デジタル信号処理の目的
2. デジタル信号処理の歴史と発展
3. デジタル信号処理のための数学基礎（1）
4. デジタル信号処理のための数学基礎（2）
5. デジタル信号処理のための数学基礎（3）
6. DFTとFFT（1）
7. DFTとFFT（2）
8. アナログフィルタ
9. デジタルフィルタ（1）
10. デジタルフィルタ（2）
11. 音声信号処理（1）
12. 音声信号処理（2）
13. デジタル画像処理（1）
14. デジタル画像処理（2）
15. 期末試験

[キーワード] 離散フーリエ変換（DFT）、高速フーリエ変換（FFT）、 z 変換、アナログフィルタ、デジタルフィルタ、音声処理、デジタル画像処理

[教科書・参考書]（参考資料）1. 電子情報通信工学シリーズ デジタル信号処理，萩原将文，森北出版 2. デジタル信号処理システムの基礎，渡部英二，森北出版 3. デジタル信号処理と基礎理論，谷萩隆嗣，コロナ社

[評価方法・基準] 試験の結果にレポート点、出席数を加味して総合的に評価する。

[関連科目] 回路理論、デジタル画像設計論、情報通信ネットワーク

[履修要件] 回路理論を履修しておくことが望ましい。

T1H323001

授業科目名：OS と計算機システム

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：Operating System and Computing System

担当教員：北神 正人

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期金曜 3 限

授業コード：T1H323001

講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20（T1H:情報画像工学科 A コース）

[授業の方法] 講義

[受入人数] 150 名程度

[授業概要] 計算機システムを実際に構築するまでを学ぶ。このために、まずプロセッサから計算機システム自身のアーキテクチャまでを学び、さらに計算機を動作させるために必要な基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。

[目的・目標] 計算機を実際に構成する際に必要となる基本的知識を理解し、さらに計算機を高性能化するために用いられる技術について知識を深めることを目的とする。また、オペレーティングシステムの構成要素の論理構造、実現方法を学ぶことにより、実際に同等のシステム設計が可能となるための知識を習得する。

[授業計画・授業内容] 前半に計算機システムに関して学び、後半にオペレーティングシステムについて学ぶ。

1. 命令セット
2. プロセッサ設計法

3. 入出力アーキテクチャ
4. メモリアーキテクチャ
5. 先進的プロセッサアーキテクチャ
6. 並列計算機アーキテクチャ
7. 中間試験
8. OS の基本概念
9. プロセス管理
10. メモリ管理
11. ファイルシステム
12. 入出力管理
13. デッドロック
14. 先進的 OS 概論
15. 期末試験

[キーワード] 計算機アーキテクチャ、マイクロプロセッサ、並列計算機、オペレーティングシステム、コンピュータネットワーク、分散 OS、並列 OS、マイクロカーネル

[評価方法・基準] 中間試験と期末試験、および毎回の小テストで評価する

T1H320001

授業科目名： オプトエレクトロニクス

(千葉工大開放科目)

科目英訳名：

担当教員： 尾松 孝茂

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 3 年前期金曜 4 限

授業コード： T1H320001

講義室： 工 9 号棟 206 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可

[授業概要] 力学、振動と波動、熱統計・量子力学、電磁気学などの既習科目と関連付けて光の現象を解説する。特に、振動と波動、熱統計・量子力学で学習した数式と最新の光科学との関係が物理的にわかるように配慮して講義をすすめる。また、適宜模範実験を入れて理解を深めるようにする。

[目的・目標] 力学、振動と波動、熱統計・量子力学、電磁気学などの既習科目と関連付けて光の屈折、反射、干渉といった現象を理解する。特に、振動と波動、熱統計・量子力学で学習した数式と光の関係が物理的にわかるように配慮して講義をすすめる。

[授業計画・授業内容]

1. オプトエレクトロニクスとは?
2. 電磁気学と光
3. 減衰振動と光
4. 強制振動と光
5. トンネル効果と光
6. 調和振動子と光
7. 水素原子モデルと光
8. ボルツマン分布と光
9. 電磁気学的境界条件と光
10. フーリエ変換と光
11. 回折光学
12. レーザー
13. 非線形光学 I

14. 非線形光学 II

15. 試験

[教科書・参考書] 光エレクトロニクス 丸善 ヤリフ (参考書) 振動と波動、熱統計・量子力学の講義ノートは必携のこと

[評価方法・基準] 試験と 3 週に 1 回程度の演習と模範実験に対するレポート提出による総合点

[関連科目] 振動と波動、熱統計・量子力学

T1H119101

授業科目名：写真創作実習

科目英訳名：Photo creation practice

担当教員：(鈴木 建男)

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年前期金曜 5 限

授業コード：T1H119101

講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 約 20 名

[受講対象] 情報画像工学科学生のみ

[授業概要] カメラのファインダーを通してモノを見方・切り取り方、光の見方・方向性を検証し、撮影したデジタル画像を Adobe-Photoshop の加工によって表現領域を広げます。

[目的・目標] 撮影されたアイテムをどのように感性表現として増幅することができるのかを可能な限り検証してゆきます。各人が異なる色、形の感じ方を構成的に捉え、その制作された作品をアートまで高めてゆきます。

[授業計画・授業内容] この授業は撮影実習を通して感性表現とは何かと言う事を学びます。日常に有るモノ、現象を光、カメラの機能によって学生諸君が実際にデジタルカメラでスタジオ撮影をして「感じる写真とは何か」「美しい光とは何か」を検証します。作品の品質偉観によって作品展を開催します。感性表現を考える制作重視の授業です。

1. オリエンテーションと撮影実習説明
2. 撮影実習 自然の色と形
3. 作品総評と次回撮影実習説明
4. 撮影実習 紙と釘
5. 作品総評と次回撮影実習説明
6. 撮影実習 ポートレート
7. 作品総評と次回撮影実習説明
8. 撮影実習 反射物の美しい表現
9. 作品総評と次回撮影実習説明
10. 撮影実習 透過物と 1 / 1000 秒の世界 (美しい瞬間の動き)
11. 作品総評と adobe photoshop の説明
12. photoshop による画像制作演習
13. 作品総評と powerpoint によるプレゼン方法と制作
14. powerpoint による前期作品発表
15. 作品展用プリント制作

[評価方法・基準] 出席点および作品の評価点で成績をつける。

[履修要件] なし

[備考] 写真データ保存用 USB メモリーを用意する事 (2 G 以上が好ましい)。

授業科目名：情報知的所有権セミナー
 科目英訳名：Intellectual Property Rights Seminar
 担当教員：(千旦 和也)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年前期金曜 2 限
 授業コード：T1H118001
 講義室：工 19 号棟 115 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 内容に関心のある工学部学生

[授業概要] 近年、知的財産というものが注目されている。目に見える有体物だけでなく、目に見えない知的創造物である発明や著作物などを保護しようとするのが知的財産制度である。このような知的財産は、実社会において、弁理士や企業の知的財産部に所属する者など知的財産を専門として扱う者だけでなく、企業や大学などで研究開発を行う者や、企業の事業を進めていく者などに何らかの関係を持っている。本講座においては、特許や商標などの産業財産権、著作権などの基本を弁理士としての経験や有名な事件などを紹介しながら講義する。授業は、一方的な講義だけでなく、グループディスカッションや質疑応答などを交えた全員参加型のものを行う予定である。

[目的・目標] 上述のように知的財産を専門とする者以外にも、研究者など様々な者が、実社会において知的財産と関係を持っており、知的財産に関する知識が不十分であると、取り返しのつかない事態を招く虞がある。そこで、本講座は、?知的財産を専門とする職業に興味がある方には、入門的知識の習得させ、?知的財産を専門としない研究開発などの職業を希望する方には、知的財産に関する最低限必要な基礎知識を習得させることを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 知的財産の概要
2. 技術の保護 (1) 特許要件
3. 技術の保護 (2) 特許取得手続
4. 技術の保護 (3) 特許を受ける権利・職務発明 (青色ダイオード判決など)
5. 技術の保護 (4) 特許権の効力・ライセンス (均等論など)
6. 技術の保護 (5) 特許権侵害 (間接侵害) (一太郎事件など)
7. 技術の保護 (6) 特許権侵害 (キャノンインクカートリッジなど)
8. デザインの保護 意匠・デッドコピー (ソーテック事件など)
9. マークの保護 (1) (BOSS 事件など)
10. マークの保護 (2) (スナックチャンネル事件など)
11. 著作物の保護 (1)
12. 著作物の保護 (2)
13. その他の知的財産権 (キャロップレーサー事件など)
14. 外国への保護
15. 試験

[キーワード] 知的所有権、知的財産、特許、実用新案、著作権、商標、商号、意匠、営業秘密、植物新品種、半導体回路配置、特許侵害訴訟、産官学連携

[教科書・参考書] 講師作成の資料「産業財産権標準テキスト (総合編)」、「特許から見た産業発展史」テキストを持っていない人は堀内 (靖) まで連絡をください。

[評価方法・基準] 出席と試験で評価

[関連科目] 特になし

[備考] 2000 年度入学生の「計算機科学セミナー」の読み替え科目である。

授業科目名：レーザ工学
 科目英訳名：Laser Engineering
 担当教員：立田 光廣
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：3 年後期月曜 2 限
 授業コード：T1H048001
 講義室：工 9 号棟 106 教室

〔千葉工大開放科目〕

科目区分

2007 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 人工の光「レーザ」と「ふつうの光」との本質的な違いに目を向け、レーザの発振機構を解説する。また、今日利用されている代表的なレーザを紹介するとともに、情報通信や光計測へのレーザの応用例について述べる。

[目的・目標] キーホルダ付きレーザポインタやCDプレーヤに組み込まれるなど、今日では身近になったレーザの本質を理解する。また、様々な領域への新たな応用の可能性について考える。

[授業計画・授業内容]

1. レーザ光とふつうの光 (ボルツマン分布, モード密度, プランクの輻射式)
2. 光の吸収と放出、レート方程式によるレーザ発振理論 (1) (反転分布, 発振のしきい値)
3. 光の吸収と放出、レート方程式によるレーザ発振理論 (2)
4. 半古典論によるレーザ発振理論 (マクスウェルの方程式, 分極, ローレンツ型利得スペクトルとその広がり幅)
5. 光共振器と発振モード
6. 気体レーザの励起機構と代表的気体レーザ装置 (1) (電子衝突, 共鳴励起, 中性原子レーザ (He-Ne), イオンレーザ (Ar), 分子レーザ (CO₂))
7. 気体レーザの励起機構と代表的気体レーザ装置 (2)
8. 固体レーザ (3 準位レーザ [ルビー], 4 準位レーザ [YAG], ガラスレーザ, Q スイッチとモード同期による短パルス発生)
9. 色素レーザ
10. 半導体レーザ (反転分布の発生, ホモ構造, 2 重ヘテロ構造)
11. レーザの応用例 1 - 光ファイバ通信 (1) 直接受信
12. レーザの応用例 1 - 光ファイバ通信 (2) コヒーレント受信
13. レーザの応用例 2 - 1 光情報処理
14. レーザの応用例 2 - 2 光計測
15. 試験

[キーワード] レーザ、反転分布、発振、分光、通信、情報処理

[教科書・参考書] ・「レーザー その科学技術にもたらしたもの」 日本物理学会編 丸善・現代レーザ工学：阿座上他：オーム社
 ・レーザ光学の基礎：伊賀：オーム社 ...
 ・量子力学：朝永：みすず書房・光エレクトロニクスの基礎：Y a r i v : 丸善

[評価方法・基準] 出席、宿題の提出内容および試験の結果をあわせて評価する。

[履修要件] 特になし

T1H108001

授業科目名： 生体情報システム論

科目英訳名： Biological Information System

担当教員： 松葉 育雄

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 3 年後期月曜 4 限

授業コード： T1H108001

講義室： 工 17 号棟 211 教室

科目区分

2007 年入学生: 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース), 専門選択 F30 (T1L:メディカルシステム工学科)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可;3 年次・尚, 2 年次は認めません

[授業概要] 生体の情報処理の様式について理解すること

[目的・目標] 生体は情報処理を行う理想的なコンピュータである。視覚のセンサ系から始め、脳神経システムにおける情報処理の様式について理解し、さらに工学的応用として、脳の神経回路を模擬したニューラルネットワークなどについて講義する。

[授業計画・授業内容] 脳とコンピュータ、生体システムでの情報処理の基本、感覚システムとしての視覚、特に網膜、視覚野の働き、側抑制など視覚システムの情報処理方式の特徴、マッハ効果、放電系列の情報量と脳の記憶容量、中枢神経システムの神経構成、システム理論と脳理論、情報理論と神経回路網の統計、興奮性結合の回路網と抑制結合をもつ回路網、論理ニューロンと論理回路、ニューラルネットワークの情報処理の特徴、連想記憶、記憶容量の統計計算、学習機械とパーセプトロン、神経回路網を利用した最適解の探索、生体情報システム論の工学応用事例

1. 脳の概要
2. 神経細胞の機能
3. 視覚情報処理 1
4. 視覚情報処理 2
5. 記憶と記憶容量
6. 神経回路網の統計
7. 論理ニューロン
8. 連想記憶と記憶容量 1
9. 連想記憶と記憶容量 2
10. 連想記憶と記憶容量 3
11. 学習機械とパーセプトロン
12. 教師なし学習
13. 組合せ最適化問題への応用
14. バイオインフォマティクス
15. 試験

[キーワード] 生体システム、視覚、神経回路網、連想記憶、学習機械

[教科書・参考書] !! 重要 !! 講義資料は必ず、以下に示すサイトから入手して、準備しておくこと。参考書：松葉著，ニューラルシステムによる情報処理，昭晃堂

[評価方法・基準] 試験，レポート等によって評価

[履修要件] 確率と統計を履修していることが望ましい

T1H029001

授業科目名： データベース

科目英訳名： Data Base

担当教員： 梶原 康司

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1H029001

開講時限等： 3 年後期月曜 5 限

講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)，専門選択科目 F36 (T1G4:電子機械工学科 A 機械系，T1G5:電子機械工学科 A 電気電子系，T1K5:電子機械工学科 (先進科学)，T1KA:電子機械工学科機械系 (先進科学)，T1KB:電子機械工学科電子系 (先進科学))

[授業の方法]

[目的・目標] コンピュータが持つ「データ処理機能」を、「データ表現能力」と「データ操作能力」に区分してテーマを設定するとともに、各テーマについて「データの表現」から「レコードの表現」へ、そしてさらに「レコード間の表現」へと系統的に講義する。

[授業計画・授業内容] データ処理機能の発展過程，データの表現方式，レコードの表現方式，レコード間の表現方式，レコードとファイル，順次ファイル，直接ファイル，索引順次ファイル，データベースの概要，データモデル一般，データの内部表現，データの独立性，データベースシステムの利用法

[評価方法・基準] 試験とレポートで評価する

授業科目名： 工学倫理	
科目英訳名： Engineering Ethics	
担当教員： 森永 良丙	
単位数： 2.0 単位	開講時限等： 3,4 年後期月曜 5 限
授業コード： T1Z051001	講義室： 105 講義室 (「105 講義室」は法経学部棟の講義室である。)

科目区分

- 2006 年入学生： 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K3:都市環境システム学科 (先進科学), T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学), T1M:共生応用化学学科, T1M1:共生応用化学学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学学科環境調和コース)
- 2007 年入学生： 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J:都市環境システム学科, T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K8:デザイン工学科建築系 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1M1:共生応用化学学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学学科環境調和コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 工学部 2～4 年次 (学科により指定あり)。

[授業概要] 工学は科学・技術のさまざまな成果を活かし、我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学問である。しかし、その使用の方向、利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ、ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では、社会との関係における工学者の使命、規範、役割、権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において、正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 実際の開講時には変更になる可能性があります。

1. ガイダンス (10 分) 倫理とは (高橋 久一郎 : 千葉大学文学部)
2. 工学倫理の特徴 (忽那 敬三 : 千葉大学文学部)
3. ネットワーク倫理 (全 へい東 : 千葉大学総合メディア基盤センター)
4. 資源エネルギー消費と環境倫理 (町田 基 : 千葉大学総合安全衛生管理機構)
5. 企業活動と知的財産権 (渡辺 隆男 弁理士 / 千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
6. 技術者の知的所有権等財産的権利 (1) (高橋 昌義 弁理士 / 千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
7. 技術者の知的所有権等財産的権利 (2) (高橋 昌義 弁理士 / 千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
8. 組織における工学者の倫理 (中込 秀樹 : 千葉大学大学院工学研究科)
9. 職能倫理としての工学倫理 (土屋 俊 : 千葉大学文学部)
10. 生命倫理 (田村 俊世 : 千葉大学大学院工学研究科)
11. 製造物責任 (PL) 法 (1) (小賀野 晶一 : 千葉大学法経学部)
12. 製造物責任 (PL) 法 (2) (小賀野 晶一 : 千葉大学法経学部)
13. 安全とリスク (1) (篠田 幸信 : NTT アドバンステクノロジー社)
14. 安全とリスク (2) (篠田 幸信 : NTT アドバンステクノロジー社)
15. 千葉大学ロボット憲章 (野波 健蔵 : 千葉大学大学院工学研究科) まとめ (10 分)

[キーワード] 工学者の使命, モラル, 義務, 規範, 技術者倫理

[評価方法・基準] 毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果を踏まえて判定します。12 回以上出席しないと、単位認定できませんので注意してください。

[履修要件] 各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし、表示がない場合は各学科教育委員に確認してください。

[備考] 講師の都合により順番、内容に関して変更する場合があります。1 回目の授業の初めに行うガイダンスに必ず出席して下さい。

T1H327001

授業科目名： 高分子機能材料

〔千葉圏域・千葉工大開放科目〕

科目英訳名：

担当教員： 小林 範久

単位数： 2.0 単位

開講時限等： 3 年後期火曜 1 限

授業コード： T1H327001

講義室： 工 9 号棟 107 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 金属の代替材料として開発された高分子は、分子設計の多様さを生かし、現在他物質を凌駕する特性を発現するに至っている。ここでは、画像関連産業のみならず我々の日常に必要な高分子材料の特徴、構造、物性を理解するとともに、様々なデバイスの中での役割および機能を発現できるような高分子材料設計指針について身近な例を挙げて説明する。学習意欲ならびに理解度の向上のため画像や映像を用いて講義する。

[目的・目標] 画像関連産業のみならず、物質が基本となる我々の日常生活において高分子材料がどのような役割を担っているのか、どのような特徴が要求されるのか、身近にある様々な素材やデバイスなど具体例を確認しながら、高分子材料の重要性と重要視されている理由を理解する（一般目標）。それらを理解した上で、どのようにして目的にあった高分子を設計・合成し、それらを実際のデバイス（例えば表示素子など）において機能させればいいのか、高分子材料設計の基本的な考え方からデバイス原理も含めた応用的考え方まで習得することを達成目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 序論 - 高分子は金属を超えたか？高分子と機能性 -
2. 身の回りの高分子
3. 画像産業に密接に関わる高分子
4. 柔らかい高分子と硬い高分子
5. 目的に合う高分子の設計指針
6. 目的に合う高分子の合成法
7. 機械特性に優れた高分子 (情報・画像への展開)
8. センシング機能，環境適応性を有する高分子
9. 生体から高分子を学ぶ
10. 電子機能性に優れた高分子
11. 光機能性に優れた高分子
12. 機能高分子とディスプレイ（駆動系）
13. 機能高分子とディスプレイ（発光型）
14. 機能高分子とディスプレイ（反射型）
15. 未来材料としての高分子

[キーワード] 高分子合成，高分子物性，高分子機能，熱・電気・光記録，静止画・動画システム，光電機能材料

[教科書・参考書] 高分子機能材料に関連する書籍、メディアを初回に紹介する。また、授業において資料を配布（授業 2 回に 1 件程度）するので、その内容を理解できるように、大学本部も強く推奨している授業外学習を行うこと（理解度に応じてでかまわない）。高分子機能材料に関する書籍は図書館に多くあるので、それらも参考にすること。

[評価方法・基準] 授業中における双方向での質疑や、試験により総合的な理解度を問う。たとえば、身の回りには様々な高分子が使われている。その高分子の役割や必要性を説明できる、ならびに必要な高分子をどのような指針で作成すればよいか説明できる、それらを用いた（特に画像関連）デバイスの原理や材料の役割を説明できるなどの達成度（全て達成できれば 100 点）を望む。

[関連科目] 現象論に関連する化学、物理系科目

[履修要件] 高分子、有機化学関連の授業を履修済みであることが望ましい。

[備考] 質問は、授業時間内の質問の他、メールおよび研究室への訪問（オフィスアワー含めメールによるアポ希望）によって受け付けます。

授業科目名：ヒューマンインタフェース	
科目英訳名：Human Interface	
担当教員：黒岩 眞吾	
単位数：2.0 単位	開講時限等：3 年後期火曜 2 限
授業コード：T1H024101	講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・発表

[受入人数] 40 名程度を想定

[授業概要] はじめに、身近な環境の中から「使いやすさ/使いにくさ」の例を探し、レポート及び発表・議論を通じ考察を進めることで、ヒューマンインタフェースに対する感覚を身に着ける。その後、目的・目標に示す 4 つのテーマについて講義形式で学習を進めることで、ヒューマンインタフェースに関する基礎技術および実践技術を習得する。最後に、ユーザビリティ向上のための改善案を、デザイン原理に基づいたプレゼンテーションを実施することで、ユーザビリティの高いプレゼンテーション法を習得する。なお、各プレゼンテーションの中の個別事例を通じ 4 つのテーマについて具体的な議論をする。ただし、受講人数が多い場合は、レポート発表の一部を Web 上で行いネットワーク上での意見交換・相互評価を行う。

[目的・目標] ユーザビリティの高いマン・マシンインタフェースを設計できる能力を習得することを目標に、(1) プレゼンテーション技法、(2) ヒューマンインタフェースの設計原則、(3) ユーザ中心設計としてのヒューマンインタフェースデザイン法、(4) ユーザ調査法およびユーザビリティ評価法、を学習する。

[授業計画・授業内容]

1. ヒューマン・インタフェースとは
2. プレゼンテーション技法 1
3. プレゼンテーション技法 2
4. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ/使い難さの例 - 身の周りから」
5. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ/使い難さの例 - 身の周りから」
6. 第 1 回レポート発表「私が見つけた使いやすさ/使い難さの例 - 身の周りから」
7. ヒューマンインタフェースの設計原則
8. ヒューマンインタフェースデザイン：インタラクションの可視化とアフォーダンス
9. ヒューマンインタフェースデザイン：ヒューマンエラーへの対応
10. ヒューマンインタフェースデザイン：デザイン原理とデザインにおけるトレードオフ
11. ユーザ調査法、ユーザビリティ評価法
12. 期末試験
13. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」
14. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」
15. 第 2 回レポート発表「ユーザビリティ向上のための提案」

[キーワード] プレゼンテーション, ユーザビリティ

[教科書・参考書] 教科書は指定しない。参考書：ドナルド・A. ノーマン「誰のためのデザイン？」(新曜社)加藤隆「認知インタフェース」(オーム社)樽本哲也「ユーザビリティエンジニアリング」(オーム社)ヤコブ ニールセン「ユーザビリティエンジニアリング原論」(東京電機大学出版局)

[評価方法・基準] レポート、授業内での小テスト(授業の最後に理解度を測るための小テストを毎回行う)などの平常点、プレゼンテーション、および期末試験の成績を総合して行う。平常点、プレゼンテーション、期末試験の比率は 1 : 6 : 3 を目安とする。

[備考] PowerPoint 等プレゼンテーション用ソフトを利用したプレゼンテーションを実施してもらいます。

授業科目名： コンパイラとオートマトン

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：

担当教員： 堀内 靖雄

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1H331001

開講時限等： 3 年後期火曜 5 限

講義室： 工 2 号棟 102 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] オートマトン理論とあわせて最大 120 名

[授業概要] コンピュータはオートマトンのひとつである。本講義ではオートマトンについて理解することにより、計算するということはどういうことであるのかを学ぶ。また、オートマトンと言語理論の興味深い関係を理解する。最後に言語理論の応用としてコンパイラについて講義する。

[目的・目標] 計算機科学の基礎概念の一つであるオートマトンと言語理論についての基本的な理解を目的とする。デジタルコンピュータの計算はオートマトンで表現可能である。また、オートマトンは言語理論と密接な関係がある。本講義ではオートマトンの概念を理解することにより、計算論と言語理論の基礎を修得するとともに、応用として、コンパイラがプログラム言語を解析・コンパイルする過程を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 基本概念，有限オートマトン，決定性有限オートマトン，非決定性有限オートマトン，正則表現（正則表現とオートマトン），正則言語の性質，文脈自由文法とその性質，プッシュダウンオートマトン（プッシュダウンオートマトンと文脈自由言語），コンパイラ，字句解析，構文解析

1. 有限オートマトンと状態遷移図：オートマトンは難しくない！
2. 決定性有限オートマトン (DFA)：オートマトンの計算と言語の受理は同じこと！
3. 非決定性有限オートマトン (NFA) は DFA と等価：有限の世界では非決定性は決定性と同じ！
4. \neg NFA： は無料で飛べる裏技！しかも \neg NFA も実は決定的であった！
5. 正則表現 (RE) とオートマトン：正則表現は再帰定義！RE は実は DFA と同じだった！
6. DFA の最小化：本当に小さいオートマトンはただ一人！
7. 文脈自由文法 (CFG) とプッシュダウンオートマトン (PDA)：文法が言語を決める！
8. PDA と CFG：ぜんぜん違うように見えても実は一緒！
9. 中間テスト (オートマトン)
10. コンパイラ概論：コンパイラが人間とコンピュータの間を埋める！
11. 字句解析：プログラムを読むのはオートマトン！
12. トップダウン構文解析：無限ループと後戻りはしたくない！
13. LL(1) 文法：ころばぬ先の一語先読み！
14. 期末テスト (コンパイラ)
15. チューリングマシン (TM)：すべてのコンピュータは TM に至る！

[キーワード] オートマトン，言語理論，正則言語，文脈自由言語，コンパイラ，構文解析

[教科書・参考書] J. ホップクロフト他，野崎他訳，オートマトン言語理論計算論 I，サイエンス社，中田育男著，コンパイラ，オーム社出版局（購入に関しては講義時に助言）

[評価方法・基準] 出欠状況，中間テストと期末テストの成績によって評価

授業科目名： プリンティング工学

〔千葉圏域・千葉工大開放科目〕

科目英訳名：

担当教員： 小関 健一

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1H326001

開講時限等： 3 年後期火曜 4 限

講義室： 工 9 号棟 206 教室

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] プリンティング技術は、情報の大量複製技術として使われている従来型の印刷技術から、版を用いない無版印刷や、可変情報を高速にプリントするオンデマンド印刷、更にはディスプレイをはじめとする電子部品や、ナノメートルスケールの印刷へと大きく進化し続けている。それら各種プリンティング技術のプロセスからマテリアルまでを科学的に解説する。

[目的・目標] プリンティング技術は情報伝達にとって基本的、かつ重要な技術である。デジタル情報のプリプレスから印刷に至るプロセス、それを支える様々なマテリアルを理解し、また新しいプリンティング技術の科学を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 序・プリンティング技術が関与する科学
2. (コンベンショナル) 印刷プロセス I
3. (コンベンショナル) 印刷プロセス II
4. (コンベンショナル) 印刷プロセス III
5. 印刷材料 (インキ、版) I
6. コンピュータ トウ …… テクノロジー (CTP) I
7. コンピュータ トウ …… テクノロジー (CTP) II
8. コンベンショナル印刷のまとめと中間テスト
9. インクジェットプリンティング技術 I
10. インクジェットプリンティング技術 II
11. 無版印刷技術
12. ナノインプリンティング技術
13. ナノプリンティング技術
14. プリンティング技術のエレクトロニクス分野への応用
15. 試験

[キーワード] 印刷技術、CTP、オンデマンド印刷、デジタルプリンティング、インクジェットプリンティング、ノンインパクトプリンティング、ナノプリンティング、プリンタブルエレクトロニクス

[教科書・参考書] 講義資料を配付する。

[評価方法・基準] 出席、レポート、中間テスト、期末テストなどにより総合的に評価する。[関連科目]

[履修要件] 特になし

T1H328001

授業科目名：物質センシング

(千葉工大開放科目)

科目英訳名：Sensing of Information on Properties of Materials

担当教員：柴 史之

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年後期水曜 2 限

授業コード：T1H328001

講義室：工 5 号棟 104 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 原則として 3 年生「光物性基礎」を履修済みであることが望ましい。2 年生の受講も認めるが、その場合は「基礎化学 A」、「同 B」、「化学基礎実験」を履修済みであること。3 年生の場合もこれらが履修済みであることが望ましい。

[授業概要] 物質の存在量や構造情報といった「化学情報」を取り出すインターフェースという観点から、物質の構造情報等を取得する各種の分光計測法を解説し、物質センシングの基礎と応用について述べる。

[目的・目標] 材料・物質の基本的な性質の解明の手段として、また環境計測やプロセス管理などできわめて重要となる、「物質の持つさまざまな情報を取り出す」ための手法と原理を理解することを目的とする。あわせて物質の構造と性質・機能の関係についても再考する。

[授業計画・授業内容]

1. 序論
2. 微小構造の拡大観察 I：光学顕微鏡・電子顕微鏡

3. 微小構造の拡大観察 II：プローブ顕微鏡
4. 電磁波と分子の構造情報 I：紫外可視吸収と蛍光
5. 電磁波と分子の構造情報 II：赤外吸収とラマン散乱
6. 電磁波と分子の構造情報 III：マイクロ波吸収と磁気共鳴
7. その他の光を利用した分析法
8. 回折現象と構造規則性
9. 組成分析
10. 質量分析
11. 熱分析
12. 物質の分離：クロマトグラフィー
13. 電気化学分析
14. その他の話題
15. 試験

[キーワード] 分子構造, 結晶構造, 表面構造, 機器分析, 分析化学, 化学計測

[教科書・参考書] 教科書：特になし

[評価方法・基準] 期末試験を基本とする。その他、随時、各事項のまとめを兼ねた小テストまたは宿題を課し、その結果も加味する。細かな事項の記憶より、物理現象や化学現象の基本的理解と、それをどのように利用できるかの理解を重視する。

[履修要件] 「光物性基礎」を履修済みであることが望ましい。

T1H325001

授業科目名：情報画像工学実験 III

科目英訳名：Laboratory Work in Information and Image Sciences III

担当教員：伊藤 秀男

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年後期水曜 3,4,5 限

授業コード：T1H325001, T1H325002, T1H325003
講義室：工 情報画像学科 実験室

科目区分

2007 年入学生：専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク

14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

T1H324002

授業科目名：情報画像基礎英語

科目英訳名：

担当教員：(太田 真智子)

単位数：2.0 単位

開講時限等：3 年後期水曜 4 限

授業コード：T1H324002

講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？ その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？ 自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？ 強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？ 英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？ 英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？ これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 情報画像基礎英語はどこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、工業英語、科学英語 自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】 推奨サブテキスト：コウビルド 英英辞典改訂第 5 版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 連絡用メールアドレスは、第一回到教室にてお知らせします。

授業科目名： デジタル画像処理 科目英訳名： Digital Image Processing 担当教員： 富永 昌二 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H330001	開講時限等： 3 年後期木曜 2 限 講義室： 工 9 号棟 107 教室	〔千葉工大開放科目〕
--	--	------------

科目区分

2007 年入学生： 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[授業概要] コンピュータによるデジタル画像処理の基礎理論と手法を具体例と例題を交えてできるだけ平易に解説する。

[目的・目標] コンピュータによる画像情報のデジタル処理について述べる。人間の視覚情報処理システムと対比しつつ、電子画像システムにおいてコンピュータで処理できる基本的な理論と手法を解説する。対象とするのは濃淡画像とカラー画像である。

[授業計画・授業内容] 毎週 1 テーマを全 14 章にわたり講義する。大枠は以下の通り。1. 人間の視覚系, 2. 画像情報機器 (処理システム, 入力装置, 出力装置), 3. 画像の表現 (標準化, 量子化, 画質, カラー表示), 4. 画像信号処理 (フーリエ変換, フィルタ処理, 画像圧縮), 5. 画像情報処理 (濃度解析, 平滑化, 先鋭化, エッジ・線検出, 画像の劣化と復元, 領域分割)。

1. デジタル画像処理の目的
2. 人間の視覚系と画像処理
3. 画像情報機器 (入力装置)
4. 画像情報機器 (出力装置)
5. 画像の表現 (標準化, 量子化)
6. 画像の表現 (画質, カラー表示)
7. 画像信号処理 (フーリエ変換)
8. 画像信号処理 (フィルタ処理)
9. 画像信号処理 (画像圧縮)
10. 画像情報処理 (濃度解析)
11. 画像情報処理 (平滑化, 先鋭化, エッジ・線検出)
12. 画像情報処理 (表示技術)
13. 画像情報処理 (画像の劣化と復元)
14. 画像情報処理 (領域分割)
15. 期末テスト

[教科書・参考書] 適宜プリントを配布する。参考書：画像処理工学，末松，山田共著，コロナ社

[評価方法・基準] 出席状況，レポート，期末試験を総合して評価する。5.9 点以下は不可。

授業科目名： 情報画像工学実験 III 科目英訳名： Laboratory Work in Information and Image Sciences III 担当教員： 伊藤 秀男 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H325004, T1H325005, T1H325006	開講時限等： 3 年後期木曜 3,4,5 限 講義室： 工 情報画像学科 実験室
---	---

科目区分

2007 年入学生： 専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

T1H120001

授業科目名：情報通信ネットワーク
 科目英訳名：Communication Systems
 担当教員：阪田 史郎
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H120001

開講時限等：3 年後期金曜 4 限
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

2007 年入学生：専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 3 年次, 4 年次

[授業概要] 各種通信ネットワークとそれを活用するための基礎となる分散処理、インターネット、プロトコルの技術が、実際にどのように使われているかを学習する。また、電話網依存からインターネット、無線ネットワークをベースとするユビキタス情報社会発展への大きな流れの中で、IT の基盤となる情報通信ネットワークとこれらの技術が、社会とどのように関わるかについても理解する。

[目的・目標] インターネットをベースとする情報通信ネットワークが、今後も社会のインフラストラクチャとして、組織・企業生活、個人生活の両面において極めて重要な役割を果たしていくことを理解し、理論、実際の両面から社会や産業界で求められる IT のコアとなるシステム技術および将来のユビキタスシステム技術を修得することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 情報通信ネットワークは、今や音声通信の電話網にとって代わり、パケットデータ通信を基本とするインターネットに代表されるコンピュータネットワークが主流になっている。本講義では、コンピュータネットワークの基礎となる分散処理の基本原則、主要な通信ネットワークの動作原理を学習した後、インターネットの構造、主要なプロトコル、さらにインターネットをベースに近年急速に技術開発が進展しているマルチメディア通信、P2P コンピューティング、コンテンツ配信、セキュリティ、無線通信によるモバイル・ユビキタスネットワークの基本方式について習得し、将来の情報通信ネットワークが生み出すユビキタス情報社会への発展方向を理解する。

1. 情報通信ネットワーク概論 - 情報通信ネットワークの変遷と現在 (回線交換からパケット交換へ、電話網からインターネットへ、有線からユビキタス無線へ、集中処理から分散処理へ)
2. 通信ネットワーク媒体 - 有線・無線の各種ネットワークの種類と特性概要、動向 - 有線：ペア線、同軸ケーブル (LAN)、光ファイバ網の動作原理と動向 無線：無線通信の基本原則と、携帯電話 (セルラー) 網 (FDMA, TDMA, CDMA から LTE, 4G へ)、無線 LAN、無線 MAN (WiMAX)、無線 PAN、短距離無線網の概要

3. 分散処理 (1) - 集中型から階層分散のクライアント・サーバ型、対等分散の P2P 型へ、ネットワーク仮想化
4. 分散処理 (2) - 同期、デッドロック、リーダ選出問題、分散トランザクション、重複データ一貫性制御、ACID などの各種分散アルゴリズム
5. コンピュータネットワーク基本原理 - 通信プロトコルとその階層・体系、これまでの変遷、OSI7 層モデル
6. インターネット (1) - インターネットの基本構造・成り立ち、設計概念とプロトコル体系, WWW の基本原理と動向
7. インターネット (2) - IP とその関連技術 (経路制御の各種アルゴリズム、マルチキャスト制御のアルゴリズムとプロトコル、モバイル IP、IPv6)
8. 討論またはレポート、試験
9. インターネット (3) - TCP とその関連技術 (フロー制御、輻輳制御、誤り制御、再送制御)、UDP によるマルチメディア通信
10. インターネット (4) - 動画・音声の符号化方式と通信とマルチメディア QoS 制御、トラフィック制御
11. ネットワークセキュリティ - 暗号・認証アルゴリズム、ファイアウォール、不正侵入検知 (IDS)、ウィルス対策、ネットワークセキュリティプロトコル
12. ネットワーク応用システム - P2P コンテンツ配信、Web サービス、クラウドコンピューティング
13. コピキタスネットワーク (1) - コピキタスシステムアーキテクチャ、短距離無線 (RF-ID、DSRC、NFC など)、無線 PAN (Bluetooth、UWB、ZigBee、ミリ波通信)、無線 LAN (IEEE802.11)、無線 MAN (IEEE802.16/16e)
14. コピキタスネットワーク (2) - モバイルアドホック、センサネットワークと省電力通信 (スマートグリッド)、ホーム・情報家電ネットワーク、NGN (次世代ネットワーク)、IPTV と通信放送融合
15. 講義予備、試験またはレポート

[キーワード] インターネット、ネットワークアーキテクチャ、コピキタスシステム、分散処理、マルチメディア通信、プロトコル、コンピュータネットワーク

[教科書・参考書] 講義資料は Web に掲載。教科書 : 「インターネットプロトコル」(阪田編著・オーム社) 参考書 : 「無線通信技術大全」(阪田編著・リックテレコム)、「詳説 TCP/IP Vol.1 新装版 : プロトコル」(R.W.Stevens 著、井上監訳)、「情報家電ネットワークと通信放送融合」(阪田編著・電気学会)

[評価方法・基準] 出席、レポート、試験で評価する。

[関連科目] 応用数学、オペレーティングシステム、データベース、マルチメディア情報処理、デジタル信号処理

T1H064101

授業科目名 : 情報画像産業汎論

科目英訳名 : Introduction to Information and Imaging Industry

担当教員 : 伊藤 秀男

単位数 : 2.0 単位

開講時限等 : 3 年後期金曜 5 限

授業コード : T1H064101

講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分

2007 年入学生 : 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 150 人

[目的・目標] 情報画像産業界における最新の技術動向を広く理解する。

[授業計画・授業内容] 情報画像工学に関して産業界で活躍している研究者・技術者が講義形態で毎週交代で最先端技術などを紹介する。3 回程度の学外演習 (工場見学) を行う。

1. 「ITS 技術の最近の研究動向」(沖電気工業株式会社)
2. 「システム L S I 設計におけるマーケティングの重要性」(富士通デバイス (株))
3. 「情報通信と社会」(NTT アクセスサービスシステム研究所)
4. 「包みのテクノロジー」(東洋製罐グループ総合研究所)
5. 未定
6. 「携帯電話における組込みソフト開発の実際」(Access)
7. 「移動通信における電波伝搬」(日立製作所)

8. 未定
9. 「新聞カラー紙面の品質管理とカラーマネージメント」(新潟日報社)
10. 「未定」(花王スキンケア研究所)
11. 「未定」(コニカミノルタオプト(株))
12. 「未定」
13. 学外演習
14. 学外演習
15. 学外演習

[評価方法・基準] 毎週の講義の最後の 10 分を利用して、レポートを作成・提出する。出席点とレポート点により評価する。

[備考] 学外演習は夏休みと春休みの予定です。この科目を受講するためには、8月と9月のガイダンスに出席している必要があります。

T1H047001

授業科目名：画像電子工学(平成 21 年度開講せず)	
科目英訳名：Electronics for Imaging Technology	
担当教員：	
単位数：2.0 単位	開講時限等：4 年
授業コード：T1H047001	講義室：

科目区分
(未登録)

[授業の方法]

[目的・目標] 画像を一旦電気信号に変換して取り扱う画像情報伝達システムにおける要素技術・装置を取り上げる。特に、光情報である画像をいかにして電気信号に変換するかに重点を置いて学ぶ

[授業計画・授業内容] (1) 概説：テレビジョン，画像情報伝達システム；(2) 画像電子装置の基礎：固体，結晶内の自由電子の運動，半導体とキャリア，エネルギー帯構造，仕事関数，金属と半導体の接触，PN 接合と整流作用，電子放出，光電現象と発光現象，真空中の電子の運動；(3) 光電変換素子：光電陰極，光電管，光電子増倍管，光導電セル，光起電池；(4) 画像装置：ブラウン管，撮像管，固体撮像デバイス

[教科書・参考書] 講義第 1 回目に参考書を紹介する

[評価方法・基準]

[履修要件] なし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H321001

授業科目名：画像電子デバイス(平成 21 年度開講せず)	
科目英訳名：	
担当教員：	
単位数：2.0 単位	開講時限等：
授業コード：T1H321001	講義室：

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 画像を一旦電気信号に変換して取り扱う画像情報伝達システムにおける要素技術・装置を取り上げる。特に、光情報である画像をいかにして電気信号に変換するかに重点を置いて、デバイスや装置が半導体等のような性質を利用して作られ、どのような原理に基づいているのかを、基礎から理解する。

[授業計画・授業内容]

1. 1). 概説
2. 2). 画像電子装置の基礎 (1) 固体。(2) 結晶内の自由電子の運動
3. (3) 半導体とキャリア

4. (4) エネルギー帯構造
5. (5) 仕事関数。(6) 金属と半導体の接触
6. (7) PN接合と整流作用
7. (8) 電子放出。(9) 光電現象と発光現象
8. (10) 真空中の電子の運動
9. 3). 光電変換素子 (1) 光電陰極。(2) 光電管
10. (3) 光電子増倍管。(4) 光導電セル。(5) 光起電池
11. 4). 画像装置 (1) CRT
12. (2) 撮像管
13. (3) 固体撮像デバイス
14. 予備
15. 試験

[評価方法・基準] 試験による。全受験者の上位10%までの人の平均点の60%以上取得した者を合格者とする。出席状況を参考に評価を行なう。

T1H041101

授業科目名：卒業研究 科目英訳名：Undergraduate Thesis Study 担当教員：松葉 育雄, 立田 光廣, 高原 茂, 須鎗 弘樹, 今泉 貴史 単位数：8.0 単位 授業コード：T1H041101	開講時限等：4 年通期集中 講義室：各研究室
--	---------------------------

科目区分

2006 年入学生：専門必修 F10 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法]

[目的・目標] 情報画像工学科各コースにおける最も重要な科目と位置付けられ、実践的な力量、研究的な力量の両面を総合的に向上させることを目指す。

[授業計画・授業内容] 各学生は研究室に所属し、ある一つのテーマについて研究を行う。研究においては、各教員から個別に指導を受ける。最終的に卒業研究発表会を行い、個別に評価が行われる。

[評価方法・基準] 研究実施内容、論文、発表により評価する。

[履修要件] 各コースと入学年次で異なるので、履修課程で確認すること。

[備考] この科目は画像システム、画像材料コースの卒業研究 II の読み替え科目である。

T1H020001

授業科目名：情報画像技術史 科目英訳名：Development of Imaging Technology 担当教員：(桑山 哲郎) 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H020001	開講時限等：4 年前期集中 講義室：工 9 号棟 206 教室
---	------------------------------------

科目区分

2006 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 「画像とは何か」をテーマに、いろいろな方面から理解を深める講義である。事例と実物教材を多用し、理解を深める。講義中と講義後の質問を歓迎する。

[目的・目標] デジタル画像技術は急速に発展し、多種多様の機器が新たに登場している。これらを十分理解するには、「画像とは何か」という原点に立ち返って考えることが有用である。この講義では、技術史の視点を用いて、画像工学の全体像に理解を深める。

[授業計画・授業内容] (1) 導入 情報画像技術史を学ぶ意味/画像とは? / 「記録」と「通信」の統一的理解, (2) 画像における「大きさ」と「形」の問題-1-線透視図法とその歴史, (3) 「大きさ」と「形」の問題-2: アナモルフォーシス, (4-6) 奥行き要素-ステレオ写真とステレオ画像, ホログラフィ, いろいろな立体画像技術, (7-9) 動き要素-ゾーマトロープ, プラクシノスコープ, 映画の発明, テレビの歴史, (10-11) 明暗の検出と再現-写真と網点印刷, 光と闇/テレビ画面の「黒」について, (12-14) 色の検出と再現-色とは何か, 色彩理論の歴史, カラー写真, カラー印刷, カラーテレビ, (15) まとめ 画像の魅力/ふたたび「画像とは?」

[教科書・参考書] プリントと教材を出席者に配布

[評価方法・基準] 各授業時間毎に, 簡単なレポートを提出。出席数とレポート記入内容により評価。

[履修要件] 特になし

[備考] 平成 21 年度は, 補講期間の 8 月 3 日 (月)~6 日 (木) の 4 日間, 3~5 時限に集中講義として行う。講義室は 工 9 号棟 206 教室を使用するが, 臨時に教室を変更する場合がありますので掲示に注意すること。

T1H087001

授業科目名: 分子素子基礎論	
科目英訳名: Molecular Devices	
担当教員: 高原 茂	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 4 年前期月曜 4 限
授業コード: T1H087001	講義室: 工 9 号棟 106 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 該当学生のみ

[受講対象] 過年度学生用科目

[授業概要] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[目的・目標] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[授業計画・授業内容] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[キーワード] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[教科書・参考書] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[評価方法・基準] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[備考] 2001 年入学学生のみ履修が可能です。2002 年以降の入学学生は履修できません。

T1H089001

授業科目名: 応用光化学	
科目英訳名: Applied Photochemistry	
担当教員: 高原 茂	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 4 年前期月曜 4 限
授業コード: T1H089001	講義室: 工 9 号棟 106 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 該当学生のみ

[受講対象] 過年度学生対応科目

[授業概要] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[目的・目標] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[授業計画・授業内容] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[キーワード] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[教科書・参考書] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[評価方法・基準] 存続科目「光機能材料」を参照してください。

[備考] 2001年入学学生のみ履修が可能です。2002年以降の入学学生は履修できません。

T1H110001

授業科目名：工業システム概論 科目英訳名：Industrial System Engineering 担当教員：(鈴木 道夫) 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H110001	開講時限等：4 年前期月曜 4 限 講義室：工 2 号棟 101 教室
--	--

科目区分

2006 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース , T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 現代の企業経営において運用されている主要なマネジメントシステムの概要および生産システムの例として計測・制御技術とその応用について学習する。さらにキャリア開発支援システムについて学習するとともに、自らのキャリアデザインの演習を行う。

[目的・目標] 企業で運用されている主要なシステム概念と具体例を理解することにより、企業がどのような仕組みで運営されているのか、技術者に何が望まれ、能力をどう高めていくのか、大学で学ぶ知識や技術を将来どう役立ていったらよいのかを自ら考えてキャリアデザインすることを目標とする。

[授業計画・授業内容] 一つは企業情報システムの基本である企業経営、経理およびその他の主要なマネジメントシステムについて、二つ目は製造業における生産管理システム、計測・制御システムについて、三つ目はキャリア開発の考え方と企業におけるキャリア支援システムについて学習し、ワークとアセスメントの実施、レポートの作成をとおしてキャリアデザインの演習を行う。

1. システムの概念 (システムとは何か、システムの特徴、システムの分類、企業におけるシステム)
2. 企業経営 (会社の種類・設立、経営理念、会社の組織、マネジメントとリーダーシップ)
3. 経理の基本 (財務諸表の見方、固定資産と減価償却、資本回収計算)
4. 生産管理システム (生産管理の形態、見込生産での情報システム、受注生産での情報システム、ERP、サプライチェーン・マネジメント、かんばん方式)
5. 計測と制御 (制御の概念、フィードバック制御とフィードフォワード制御、制御の目的による分類、PID 制御、制御システムの構成、制御装置)
6. 計測と制御 (計測とセンサー、アクチュエーター)
7. 鉄鋼業における計測と制御技術 (鉄鋼業の特徴、鉄鋼業と計測・制御技術の役割、鉄鋼業におけるセンサ開発、製鉄所のコンピュータシステム、計測・制御技術の開発事例)
8. 企業の主なマネジメントシステム? (リスク管理とコンプライアンス、情報セキュリティシステム)
9. 企業の主なマネジメントシステム? (品質管理システム、環境マネジメントシステム)
10. キャリア開発支援システム? (キャリアの問題とその背景、自律的キャリア開発、キャリアとはなにか)
11. キャリア開発支援システム? (キャリア理論)
12. キャリア開発支援システム? (キャリア開発の進め方)
13. キャリア開発支援システム? (能力開発、企業のキャリア開発支援システム)
14. キャリア開発支援システム? (最後まとめ)
15. 試験

[キーワード] 生産管理、損益管理、品質管理、情報セキュリティ、環境管理、リスク管理、計測制御、システム、キャリア開発、能力開発

[教科書・参考書] Web 上に掲載、各自でプリントアウトして講義に持参すること
http://www.geocities.jp/complex_lab2005/

[評価方法・基準] 出席、レポート、試験によって評価

[履修要件] なし

[備考] 試験とレポートによって評価

授業科目名：電子イメージング工学
 科目英訳名：Electronic Imaging
 担当教員：星野 勝義
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H082001

開講時限等：4 年前期月曜 5 限
 講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 未だ実用化には至っていないが、今後実用化が期待される先端材料を紹介する。情報画像工学分野を、エネルギー的側面、インターフェースとして、そして環境的側面から支援する最新の材料を取り上げる。

[目的・目標] 今日の材料研究の分野は大きな変革期を迎え、ナノテクノロジーが切り開く新しい世界形成されつつある。画像工学及び情報工学の分野もその例外ではなく、先端材料に立脚した新しい分野に変貌しようとしている。ここでは主に、情報画像工学に関連する先端材料を把握し、その基礎を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 先端材料を学ぶための基礎、有機物を用いた新しいディスプレイ、電子ペーパー、ナノワイヤー・ナノチューブ、先端材料としてのトナー、光触媒、新型太陽電池などを予定している。“先端”の分野であるので、内容は固定せず、最新知識の導入がなされるように配慮する。従って、以下の授業計画（題目や回数）はあくまで暫定的なものであり、変更する場合がある。

1. 先端材料を学上での基礎 I
2. 先端材料を学上での基礎 II
3. 先端材料を学上での基礎 III
4. 有機物を用いた新しいディスプレイ-情報画像を支えるインターフェース
5. 有機物を用いた新型太陽電池 - 情報画像とエネルギー
6. 電子ペーパー I - 情報画像と環境
7. 電子ペーパー II - 情報画像と環境
8. ナノ構造材料 I - 情報画像の新展開
9. ナノ構造材料 II - 情報画像の新展開
10. ナノ構造材料 III - 情報画像の新展開
11. 光触媒 I - 情報画像の新展開
12. 光触媒 II - 情報画像の新展開
13. 先端材料としてのトナー - 古くて新しい情報画像技術
14. 先端材料のこれから
15. 期末試験

[キーワード] 有機 EL ディスプレイ、有機太陽電池、電子ペーパー、ナノワイヤー、ナノチューブ、光触媒、新型トナー

[教科書・参考書] 特になし。授業の都度プリントを配布するので、重要事項は書き込むこと。

[評価方法・基準] 最終回に行う期末試験の成績により評価する。多くの設問が課せられるので、各回の復習をし、関連する書籍を読むことが望ましい。

[履修要件] 特になし。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：界面電子プロセス
 科目英訳名：Interfacial Electronic Processes
 担当教員：星野 勝義
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H083001

開講時限等：4 年前期月曜 5 限
 講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 未だ実用化には至っていないが、今後実用化が期待される先端材料を紹介する。情報画像工学分野を、エネルギー的側面、インターフェースとして、そして環境的側面から支援する最新の材料を取り上げる。

[目的・目標] 今日の材料研究の分野は大きな変革期を迎え、ナノテクノロジーが切り開く新しい世界形成されつつある。画像工学及び情報工学の分野もその例外ではなく、先端材料に立脚した新しい分野に変貌しようとしている。ここでは主に、情報画像工学に関連する先端材料を把握し、その基礎を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 先端材料を学ぶための基礎、有機物を用いた新しいディスプレイ、電子ペーパー、ナノワイヤー・ナノチューブ、先端材料としてのトナー、光触媒、新型太陽電池などを予定している。“先端”の分野であるので、内容は固定せず、最新知識の導入がなされるように配慮する。従って、以下の授業計画（題目や回数）はあくまで暫定的なものであり、変更する場合がある。

1. 先端材料を学上での基礎 I
2. 先端材料を学上での基礎 II
3. 先端材料を学上での基礎 III
4. 有機物を用いた新しいディスプレイ-情報画像を支えるインターフェース
5. 有機物を用いた新型太陽電池 - 情報画像とエネルギー
6. 電子ペーパー I - 情報画像と環境
7. 電子ペーパー II - 情報画像と環境
8. ナノ構造材料 I - 情報画像の新展開
9. ナノ構造材料 II - 情報画像の新展開
10. ナノ構造材料 III - 情報画像の新展開
11. 光触媒 I - 情報画像の新展開
12. 光触媒 II - 情報画像の新展開
13. 先端材料としてのトナー - 古くて新しい情報画像技術
14. 先端材料のこれから
15. 期末試験

[キーワード] 有機 EL ディスプレイ、有機太陽電池、電子ペーパー、ナノワイヤー、ナノチューブ、光触媒、新型トナー

[教科書・参考書] 特になし。授業の都度プリントを配布するので、重要事項は書き込むこと。

[評価方法・基準] 最終回に行う期末試験の成績により評価する。多くの設問が課せられるので、各回の復習をし、関連する書籍を読むことが望ましい。

[履修要件] 特になし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H098101

授業科目名：印刷材料学

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：Printing Materials - Paper Science

担当教員：(岡山 隆之), (江前 敏晴)

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年前期月曜 5 限

授業コード：T1H098101

講義室：工 9 号棟 107 教室

科目区分

2006 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 40

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可; 履修しない人も自由に聴講してください。

[授業概要] 印刷メディアとしての紙の製造方法や紙の物性、紙の解析に用いる画像処理法について講義する。驚きの嵐などで取り上げられた紙の実験などについてもみんなで討論する参加型の授業もある。

[目的・目標] 印刷、プリンタに用いられる材料のうち、特に印刷適性、画像再現に大きな影響を与える印刷用紙について基礎から応用まで解説する。

[授業計画・授業内容] 印刷材料としての紙・パルプの製造法、物性、加工などその基礎に関する科学(木材成分の科学、界面物理化学、力学、光学)を全般的に解説する。また紙の解析に応用可能な画像解析法についても説明する。

1. 4月12日 江前担当 < 概説・抄紙 > メディアの変遷、生産量、歴史、叩解、紙料調成
2. 4月19日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
3. 4月26日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
4. 5月10日 江前担当 < 抄紙 > 薬品、抄紙、乾燥、カレンダー、紙の構造
5. 5月17日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
6. 5月24日 江前担当 < 抄紙・物性 > 薬品、抄紙、乾燥、カレンダー (2)
7. 5月31日 江前担当 < 紙加工・物性 > 吸油特性塗工の基礎と応用、印刷適性
8. 6月7日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
9. 6月14日 江前担当 < 物性 > サイズ度、吸水
10. 6月21日 江前担当 < 画像解析 > 画像解析を利用した紙の特性評価
11. 6月28日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
12. 7月5日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
13. 7月12日 岡山担当 < パルプ > パルプ化/リサイクル (詳細は未定)
14. 7月26日 江前担当 < 抄紙実習 (2回分) > 実験1 - 抄紙, 実験2 - 物性測定, 2日分の講義に相当します。4限に他の講義受け参加できない人はレポートを課します。
15. 8月2日 (休講の予定)

[キーワード] 紙, インクジェット, パルプ, リサイクル

[教科書・参考書] 「紙の科学」(門屋卓 他著、中外産業調査会 1977)、「パルプおよび紙」(大江礼三郎 他著、文永堂出版 1997) などがありますが、ホームページの「紙の科学」で十分です。

[評価方法・基準] 出席を重視する。試験は実施せずレポートを課す予定。最終回に行う予定の抄紙実習について、参加できないものは代替りのレポートを別に提出のこと。課題は追って連絡する。

[備考] 下記のホームページに連絡事項を随時掲載していくので時々見る。抄紙実習の説明、講義に使用したスライドファイルもあるので参考にすること。

T1H050001

授業科目名： 視覚工学概論 I

科目英訳名： Introduction to vision science I

担当教員： 矢口 博久

単位数： 2.0 単位

授業コード： T1H050001

開講時限等： 4 年前期水曜 4 限

講義室： 工 17 号棟 111 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 人間の視覚系について、主に知覚に関わる心理物理実験と、網膜及び大脳視覚野の各部位での情報処理過程モデルを対応づけながら、空間特性、時間特性、運動視、立体視の諸機能についての概説する。

[目的・目標] 画像工学に関連する視覚の基礎特性の理解，人間の知覚特性の評価，研究方法の理解，およびそれらを通して複雑な現象から本質を捉える能力の鍛練を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 視覚とはなにか — 視覚理解の本質
2. 視覚とはなにか — 視覚理解の方法
3. 眼球の構造 — 眼球光学系と網膜
4. 眼球の構造 — 視力と結像
5. 光受容体と標本化
6. 暗順応，明順応と光受容体の応答
7. 空間特性と網膜の細胞
8. 周辺視と網膜の不均一
9. 視覚系の空間周波数特性

10. 形状知覚と周波数特性
11. 大脳視覚野の空間周波数特性
12. 時間周波数特性
13. 試験
14. 試験の解説と時空間特性もまとめ
15. 立体視と運動視

[キーワード] 視覚, 心理物理, 網膜, 大脳視覚野

[教科書・参考書] 資料を配布する。

[評価方法・基準] 6回のレポートと試験の成績をそれぞれ50点満点で採点して, 合計点が60点以上を合格とする。

[履修要件] フーリエ解析についての基礎知識があることが望ましい。

[備考] 2004年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので, 注意すること。

T1H061001

授業科目名: 画像システム工学実験 II

科目英訳名: Laboratory work in Imaging System II

担当教員: 伊藤 秀男

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 4 年前期火曜 3,4,5 限

授業コード: T1H061001, T1H061002, T1H061003
講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講を認めない。

T1H094001

授業科目名：画像材料工学実験 II
 科目英訳名：Laboratory work in Imaging Materials II
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：3.0 単位
 開講時限等：4 年前期火曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H094001, T1H094002, T1H094003
 講義室：工 情報画像学科 実験室

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H027001

授業科目名：情報工学実験 2
 科目英訳名：Information Engineering Laboratories II
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期火曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H027001, T1H027002, T1H027003
 講義室：工 情報画像学科 実験室

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1

2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 情報工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H012001

授業科目名： 計算機システム序論 科目英訳名： Introduction to Computer Organization 担当教員： 伊藤 秀男 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H012001	開講時限等： 4 年前期水曜 4 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 計算機システムの基本構造と動作を理解するため, 数や記号の表現原理, 計算機の基本構造, 命令とアセンブリ言語, アセンブラの動作, 基本計算機回路を学ぶ。

[目的・目標] 電子計算機システムの基本的な原理, 構造, 動作を理解することを目的とする。電子計算機システムを始め, インターネット, 家電製品, 携帯機器, 自動車, 産業機械, 航空機など今日のほとんどあらゆる機器には電子計算機が組み込まれている。したがって, これからの技術者には, 電子計算機システムの基本的な原理, 構造, 動作を理解することが必須の条件となっている。本講義ではこれらの基本事項を修得する。

[授業計画・授業内容]

1. 計算機システムの構造と動作, 計算機の論理構造, 計算機の歴史
2. 数や記号の表現原理, 整数の表現
3. 小数点を含む数の表現, 浮動小数点表現, 文字や記号の表現
4. 計算機の基本動作, COMET の概要, COMET の命令の概要
5. 各命令の説明
6. アセンブリ言語 CASL, 命令の種類と形式
7. アセンブラの動作概要
8. 中間試験
9. 基本計算機回路, 計算機回路の分類, 基本演算と論理関数
10. ゲートと基本回路
11. 演算回路
12. 記憶回路, 半導体メモリ, フリップフロップ回路
13. 順序回路の概念

14. 順序回路の構成

15. 期末試験

[キーワード] 計算機システム, 数, 文字, 記号, 命令, アセンブラ, 演算回路, 記憶回路, 順序回路

[教科書・参考書] 伊藤秀男, 倉田是著, 「入門計算機システム」, 朝倉書店

[評価方法・基準] 出席 30%, 中間試験 35%, 期末試験 35%により評価する.

[関連科目] OS と計算機システム

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H092001

授業科目名: 画像材料工学演習 II

科目英訳名: Seminar in Imaging Materials II

担当教員: 各教員

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 4 年前期水曜 2 限

授業コード: T1H092001

講義室: 各研究室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実習・実技

[授業概要] 画像材料工学に必要とされる基礎的な知識を演習を通して習得する。

[目的・目標] 画像材料工学の基礎となる基本的事項と手法を学ぶ。

[授業計画・授業内容] 情報画像工学科の各教育研究分野でどのような研究がなされているか, 演習, 実験等を通して体得する。

[評価方法・基準] 出席で評価する

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H094004

授業科目名: 画像材料工学実験 II

科目英訳名: Laboratory work in Imaging Materials II

担当教員: 伊藤 秀男

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 4 年前期水曜 3,4,5 限

授業コード: T1H094004, T1H094005, T1H094006
講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎

9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H061004

授業科目名： 画像システム工学実験 II 科目英訳名： Laboratory work in Imaging System II 担当教員： 伊藤 秀男 単位数： 3.0 単位 授業コード： T1H061004, T1H061005, T1H061006		開講時限等： 4 年前期水曜 3,4,5 限 講義室： 工 情報画像学科 実験室
---	--	---

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：情報工学実験 2
 科目英訳名：Information Engineering Laboratories II
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期水曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H027004, T1H027005, T1H027006
 講義室：工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 30 人程度の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光・色・吸収 1
2. 光・色・吸収 1
3. 光・色・吸収 2
4. 光・色・吸収 2
5. 波動光学基礎
6. 波動光学基礎
7. 画像処理基礎
8. 画像処理基礎
9. 周波数解析
10. 周波数解析
11. 論理回路設計
12. 論理回路設計
13. プロセッサの基礎
14. プロセッサの基礎

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 情報工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：情報基礎英語
 科目英訳名：Basic English in Information Science
 担当教員：(太田 真智子)
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期水曜 4 限
 授業コード：T1H116001
 講義室：工 17 号棟 215 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？ その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 情報基礎英語はどこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】 推奨サブテキスト：コウビルド 英英辞典改訂第5版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H042001

授業科目名：画像工学演習 科目英訳名：Seminar in Image Science 担当教員：(太田 真智子) 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H042001	開講時限等：4 年前期水曜 4 限 講義室：工 17 号棟 215 教室
--	---

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 専門英語はどこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】推奨サブテキスト：コウビルド英英辞典改訂第5版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H100001

授業科目名：工業英語演習	
科目英訳名：Aspects of Technical English	
担当教員：(太田 真智子)	
単位数：2.0 単位	開講時限等：4 年前期水曜 4 限
授業コード：T1H100001	講義室：工 17 号棟 215 教室

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を「律して」学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 工業英語はどこにあるのだろう：科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】 推奨サブテキスト：コウビルド 英英辞典改訂第5版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H036001

授業科目名：心理物理学
 科目英訳名：Psychophysics
 担当教員：青木 直和
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H036001

開講時限等：4 年前期木曜 2 限
 講義室：工 9 号棟 206 教室

科目区分

2006 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 工学部 情報画像工学科 3～4 年生

[授業概要] 画像分野における心理物理学的手法の利用と応用

[目的・目標] 心理物理学とは、刺激と感覚の関係を扱う科学である。心理物理学的測定法は、心理機能、脳機能を探求するための標準的方法の1つとして、さまざまな科学・技術分野で広く用いられている。信号検出理論の発展と感覚量の直接尺度構成法の改良により進展してきており、知覚、学習、行動といった広い領域での問題解決に役立つ。

[授業計画・授業内容] 心理測定概念、視覚現象概念等、心理測定手法について解説を行う。ある視覚現象を実際に測定してデータを得、データ処理の実際、具体的な方法、注意点などについて解説を行う。

1. 概要
2. 心理物理学とは
3. 心理測定法

4. 心理物理学理論
5. 心理物理学測定法
6. 心理物理学的法則
7. 閾値の心理物理学的測定
8. 感覚属性の測定と弁別尺度
9. 信号検出理論
10. 分割尺度と尺度構成法
11. 近年の心理物理学
12. 心理物理学の応用

[キーワード] 知覚, 感覚, 心理学, 統計学

[評価方法・基準] 出席, レポート

T1H115001

授業科目名: プログラムの設計と実現 II

科目英訳名: Design and Implementation of Computer Programs (2)

担当教員: 森 康久仁

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1H115001

開講時限等: 4 年前期金曜 3 限

講義室: 工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1)

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 82

[授業概要] コンピュータプログラミングの基礎を学ぶ。UNIX 環境で C 言語を用いたプログラミングを身につけることにより、アルゴリズム構築について学ぶ。

[目的・目標] 将来、コンピュータを使いこなせるようになるためには、プログラミングの基礎を身につけることは非常に重要である。その中でも手続き型言語は計算方法（アルゴリズム）を考える基礎を身につけるために最適である。本講義と第 2 セメスターの「情報画像リテラシー」の両方を履修することにより、C 言語を一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] C 言語によるプログラミングを通して、プログラミングの基礎を身につける。

1. ガイダンス、簡単なプログラミング（復習）
2. 変数（復習）
3. 条件分岐、繰り返し（復習）
4. 配列
5. 関数 (1)
6. 関数 (2)
7. ポインタ
8. ポインタと配列
9. ポインタの配列、ポインタへのポインタ
10. 二次元配列とポインタ
11. 文字と文字列
12. メイン関数の引数
13. 構造体
14. 変数のスコープ
15. 期末テスト

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新版 明解 C 言語 入門編 柴田望洋著 ソフトバンク

[評価方法・基準] 出欠, 講義の中で行う演習課題, 期末テストに基づき評価する

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H114001

授業科目名：プログラムの設計と実現 I
 科目英訳名：Design and Implementation of Computer Programs (1)
 担当教員：堀内 靖雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期木曜 2 限
 授業コード：T1H114001
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 82

[授業概要] コンピュータプログラミングの基礎を学ぶ。UNIX 環境で C 言語を用いたプログラミングを身につけることにより、アルゴリズム構築について学ぶ。

[目的・目標] 将来、コンピュータを使いこなせるようになるためには、プログラミングの基礎を身につけることは非常に重要である。その中でも手続き型言語は計算方法(アルゴリズム)を考える基礎を身につけるために最適である。本講義と第 2 セメスターの「情報画像リテラシー」の両方を履修することにより、C 言語を一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] C 言語によるプログラミングを通して、プログラミングの基礎を身につける。

1. ガイダンス、簡単なプログラミング(復習)
2. 変数(復習)
3. 条件分岐、繰り返し(復習)
4. 配列
5. 関数(1)
6. 関数(2)
7. ポインタ
8. ポインタと配列
9. ポインタの配列、ポインタへのポインタ
10. 二次元配列とポインタ
11. 文字と文字列
12. メイン関数の引数
13. 構造体
14. 変数のスコープ
15. 期末テスト

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新版 明解 C 言語 入門編 柴田望洋著 ソフトバンク

[評価方法・基準] 出欠, 講義の中で行う演習課題, 期末テストに基づき評価する

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H058001

授業科目名：画像システム工学演習 I
 科目英訳名：Seminar in Imaging Systems I
 担当教員：堀内 隆彦
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期火曜 2 限
 授業コード：T1H058001
 講義室：工 17 号棟 113 教室

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 過年度の画像システム工学コースの学生

[授業概要] 基本的な数学および信号処理モデルを説明した後、フーリエ級数展開、フーリエ変換、離散フーリエ変換、FFT、2次元フーリエ変換、フィルタリングなどを画像と絡めながら演習を交えて講義する。

[目的・目標] デジタル画像処理などの画像システム工学や、光学などの画像材料工学において、基本的かつ有用であるフーリエ変換の基本的性質を理解し、画像との関連性について学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. 総論
2. フーリエ級数
3. フーリエ展開
4. フーリエ級数展開のベクトル表現
5. フーリエ級数展開の複素形式
6. 1次元フーリエ変換 (1)
7. 1次元フーリエ変換 (2)
8. 離散フーリエ変換 (1)
9. 離散フーリエ変換 (2)
10. 高速フーリエ変換
11. A/D・D/A変換と標本化定理
12. 2次元フーリエ変換
13. フーリエ変換と画像 (1)
14. フーリエ変換と画像 (2)
15. 期末試験

[評価方法・基準] 毎回の演習および期末試験による

[履修要件] 過年度の画像システム工学コースが受講。

[備考] フーリエ変換と画像と同時開講。2004年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H091001

授業科目名：画像材料工学演習 I

科目英訳名：Seminar in Imaging Materials I

担当教員：堀内 隆彦

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年前期火曜 2 限

授業コード：T1H091001

講義室：工 17 号棟 113 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受講対象] 過年度の画像材料工学コースの学生

[授業概要] 基本的な数学および信号処理モデルを説明した後、フーリエ級数展開、フーリエ変換、離散フーリエ変換、FFT、2次元フーリエ変換、フィルタリングなどを画像と絡めながら演習を交えて講義する。

[目的・目標] デジタル画像処理などの画像システム工学や、光学などの画像材料工学において、基本的かつ有用であるフーリエ変換の基本的性質を理解し、画像との関連性について学ぶ。

[授業計画・授業内容]

1. 総論
2. フーリエ級数
3. フーリエ展開
4. フーリエ級数展開のベクトル表現
5. フーリエ級数展開の複素形式
6. 1次元フーリエ変換 (1)
7. 1次元フーリエ変換 (2)

8. 離散フーリエ変換 (1)
9. 離散フーリエ変換 (2)
10. 高速フーリエ変換
11. A/D変換と標本化定理
12. 2次元フーリエ変換
13. フーリエ変換と画像 (1)
14. フーリエ変換と画像 (2)
15. 期末試験

[教科書・参考書] 配布資料による

[評価方法・基準] 毎回の演習および期末試験による

[履修要件] 過年度の画像材料工学コースが対象。

[備考] フーリエ変換と画像と同時開講。2004年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H115002

授業科目名：プログラムの設計と実現 II

科目英訳名：Design and Implementation of Computer Programs (2)

担当教員：森 康久仁

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年前期金曜 5 限

授業コード：T1H115002

講義室：工 1 号棟 5 階 501 情報工学演習室 (1)

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 82

[授業概要] コンピュータプログラミングの基礎を学ぶ。UNIX 環境で C 言語を用いたプログラミングを身につけることにより、アルゴリズム構築について学ぶ。

[目的・目標] 将来、コンピュータを使いこなせるようになるためには、プログラミングの基礎を身につけることは非常に重要である。その中でも手続き型言語は計算方法 (アルゴリズム) を考える基礎を身につけるために最適である。本講義と第 2 セメスターの「情報画像リテラシー」の両方を履修することにより、C 言語を一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] C 言語によるプログラミングを通して、プログラミングの基礎を身につける。

1. ガイダンス、簡単なプログラミング (復習)
2. 変数 (復習)
3. 条件分岐、繰り返し (復習)
4. 配列
5. 関数 (1)
6. 関数 (2)
7. ポインタ
8. ポインタと配列
9. ポインタの配列、ポインタへのポインタ
10. 二次元配列とポインタ
11. 文字と文字列
12. メイン関数の引数
13. 構造体
14. 変数のスコープ
15. 期末テスト

[キーワード] プログラミング, C 言語, アルゴリズム, データ構造

[教科書・参考書] 新版 明解 C 言語 入門編 柴田望洋著 ソフトバンク

[評価方法・基準] 出欠，講義の中で行う演習課題，期末テストに基づき評価する

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H121001

授業科目名： 計算図学 科目英訳名： Computational Descriptive Geometry 担当教員： 津村 徳道 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H121001	開講時限等： 4 年前期木曜 4 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] コンピュータグラフィックスの基礎から応用まで幅広く、教科書やビデオなどを用いて概説するとともに、情報画像工学科の学生にとって重要な事項は特に深く解説する。また、POV - Ray や JAVA を用いた演習を行う。

[目的・目標] 現実の世界を計算機の世界の中で再現するコンピュータグラフィックスの分野は、数学、物理など様々な科学や工学の分野を取り込んで急速に成長している。講義では、その躍動を伝えとともに、新しいことに恐れず積極的に取り入れる姿勢を学んでもらいたい。また、コンピュータグラフィックスという応用を通して、基礎学問の重要性を学び、持続的に成長する人材の育成を目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 講義概要，CG 最新情報，デジタルカメラモデル
2. 座標変換
3. モデリング (1)
4. モデリング (2)
5. レンダリング (1)
6. レンダリング (2)
7. レンダリング (3)
8. 演習 (1) POV - Ray
9. アニメーション
10. 演習 (2) JAVA
11. 画像処理
12. 演習 (3) JAVA
13. イメージベースドレンダリング
14. CG システム
15. 試験

[教科書・参考書] 受講する場合は 2 回目より下記の教科書を用意した上で聴講すること。コンピュータグラフィックス，定価 3,360 円，ISBN 4-906665-48-9 B5 版 フルカラー 352 ページ，財団法人 画像情報教育振興協会

[評価方法・基準] 試験成績，演習課題評価，授業参加評価などを総合して評価

T1H097001

授業科目名： 広報媒体論 科目英訳名： Study on Mass Media 担当教員： (左近 勝利) 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H097001	開講時限等： 4 年前期木曜 5 限 講義室： 工 9 号棟 206 教室
--	--

科目区分

2006 年入学生： 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース， T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法]

[受講対象] 広告・広報、情報メディア、情報コミュニケーション、生活潮流・流行現象など世の中の動きに関心の高い者

[目的・目標] 情報通信技術の進歩発展はめざましく、ユビキタスネットワーク社会の到来も近い。情報を伝えるメディアもデジタル革命の中で大きな変貌を遂げている。他方、アナログメディアも新しい領域への広がりを見せている。このようなメディア環境の変化の中で情報コミュニケーションのあり方も大きな変化を続けている。本授業では広告・広報という視点からメディアとコミュニケーションの関わりや現実の姿、そして変化の方向を探っていく。

[授業計画・授業内容] 情報メディアは私たちの生活と深く関わっている。大部分のメディアの存立を支える広告・広報は私たちの消費生活だけでなくライフスタイルや意識・態度・価値形成にも影響を与え、社会的・経済的・文化的インパクトも大きい。本授業では変貌を遂げる情報メディアの姿とそれを利用しながらも独自のあり方を追求するマーケティング・コミュニケーションの実態や基本的なあり方を解説する。また、内外の優れたCMやビジュアル素材も可能な限り多く紹介する予定である。

1. ユビキタスネットワーク社会の到来
2. 変貌を遂げる情報メディア
3. 広告の誕生と発展
4. 日本経済の発展と広告
5. 現代社会における広告の機能と役割
6. 広告表現・クリエイティブ
7. 広告媒体・新聞
8. 広告媒体・雑誌
9. 広告媒体・ラジオ
10. 広告媒体・テレビ
11. 広告媒体・SP媒体、アウト・オブ・ホーム媒体
12. 広告媒体・インターネット
13. 新しいマーケティング・コミュニケーションのカタチ
14. ブランド、ブランド・マネジメント
15. 広告の未来～広告はどこへ行くのか

[キーワード] コミュニケーション

[教科書・参考書] 特になし、授業の中で必要に応じて参考書籍を紹介する。

[評価方法・基準] 期末レポートを基本とする。レポートでは急速な発展と変化を遂げる広報メディアと情報画像工学との関わりや可能性を学生自ら主体的に考察させる。また、随時小テスト、およびアンケート調査を実施し、個別事項に対する理解の深さ、関心の高さなども評価の補足とする。全体を通した理解が重要であるため、授業への出席率も評価ポイントとする。

[備考] 講師は広告会社の電通で30年以上、最前線の現場で仕事をしてきた。理論だけでなく、コミュニケーションビジネスの実態についても伝えたいと考えている。

T1H059001

授業科目名：画像システム工学演習 II 科目英訳名：Seminar in Imaging Systems II 担当教員：各教員 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H059001	開講時限等：4 年前期水曜 2 限 講義室：各研究室
---	-------------------------------

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 実習・実技

[授業概要] 画像システム工学に必要とされる基礎的な知識を演習を通して習得する。

[目的・目標] 画像システム工学の基礎となる基本的事項と手法を学ぶ。

[授業計画・授業内容] 情報画像工学科の各教育研究分野でどのような研究がなされているか、演習、実験等を通して体得する。

[評価方法・基準] 出席で評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：基礎物理化学 I	
科目英訳名：Fundamental Physical Chemistry I	
担当教員：星野 勝義	
単位数：2.0 単位	開講時限等：4 年前期金曜 2 限
授業コード：T1H074101	講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 特に制限無し

[受講対象] 3 年生以上

[授業概要] マテリアルを理解するための物理化学の基礎として、ここではマテリアルの持つ性質のうちの巨視的性質を取り扱う。巨視的性質とは、原子や分子が集団で動くときに示す性質である。それを説明する主な理論である平衡論と、反応速度論を軸に、酸・塩基や電気化学も含めて学習する。

[目的・目標] 物理化学はマテリアルの理解の基礎となる科目である。この科目の勉強をとおして、情報画像工学への応用のためのマテリアルの理解に必要な一貫した知識を習得することを目的とする。基礎物理化学はその第 1 段階の科目であり、専門基礎科目の基礎化学 A に続く科目である。

[授業計画・授業内容] ほぼ毎回出席を兼ねた宿題を課す。宿題は翌週返却し、解説を行う。

1. 1. 序論：ものの変化を説明する 2 つの要素 = 平衡と反応速度、単位について
2. 2. 熱力学の基礎：2-1. 熱力学の第 1 法則、2-2. 熱力学の第 2, 第 3 法則
3. 2-3. 永久機関、3. 自由エネルギー：3-1. 自由エネルギーとは、3-2. 自由エネルギー変化の使い方
4. 4. 相平衡 (どの方向へ状態は行こうとしているのか)：4-1. 相、4-2. 相転移の熱力学、4-3. 平衡
5. 5. 化学平衡 (どの方向へ行こうとしているのか)：5-1. 化学平衡と平衡定数、5-2. 平衡の移動 (移動の方向の予測)、5-3. 平衡定数と自由エネルギーの関係
6. 5-4. 平衡定数の温度による変化、6. イオンを含む平衡：6-1. 溶解度積 (平衡定数の応用例 1)
7. 6-2. 酸と塩基、6-3. 酸解離定数 (平衡定数の応用例 2, 電離度よりも定量的な取扱)
8. 6-4. pH、6-5. 塩基の解離平衡、6-6. 緩衝液、化学基礎実験第 1 回 (pH の測定)、第 2 回 (中和滴定) の復習を含む
9. 7. 電気化学：7-1. 酸化と還元 (電子のやりとり)、7-2. 化学電池 (電池の構成と電子の流れ方)、7-3. 標準電極電位と起電力
10. 7-4. ネルンストの式と電池の平衡定数、7-5. 電池の電圧、7-6. 電気化学系列
11. 8. 化学量論 (変化の量的取扱)：8-1. 化学反応式、8-2. 物質質量、8-3. 化学量論による計算、8-4. 化学量論計算のこつ
12. 9. 反応速度 (どのくらいの速さで行こうとしているのか)：9-1. 反応速度をどう表すか、9-2. 反応次数、9-3. 1 次反応
13. 9-4. 反応速度式の数学、化学基礎実験第 5 回 (化学反応速度の測定) の復習を含む、9-5. 2 次反応
14. 9-6. 温度依存性、9-7. 活性錯合体と活性化エネルギー、9-8. 触媒反応
15. 試験

[キーワード] 巨視的性質、熱力学の法則、自由エネルギー、化学平衡、平衡定数、酸と塩基、pH、酸化と還元、電極電位、電池、反応速度式、活性化エネルギー

[教科書・参考書] 教科書：「基本化学シリーズ 6 物理化学」北村彰英 (編)、久下謙一、大西勲、島津省吾、進藤洋一 (著) 朝倉書店、ISBN4-254-14576-4

[評価方法・基準] 評価は出席と宿題を合わせた平常点と、試験とを、総合して行う。平常点 50% と試験の点 50% を合わせた点数と、試験単独の点数のうち、点数の高い方を採用する。

[関連科目] 基礎化学 A、化学基礎実験

[履修要件] 基礎化学 A と化学基礎実験の内容を復習しておいてください。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H004001

授業科目名：情報数学 1
 科目英訳名：Mathematics for Information Science I
 担当教員：岸本 渡
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期金曜 4 限
 授業コード：T1H004001
 講義室：工 5 号棟 204 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 計算機科学の基礎となる離散構造、代数構造に関する基礎的事項について例を示しながら講述する。

[目的・目標] 計算機科学で用いられる離散数学、代数系に関する基礎的事項の習得。

[授業計画・授業内容]

1. 集合
2. 集合、関係
3. 同値関係と同値類
4. 順序関係
5. 背理法、帰納法
6. 再帰
7. 命題論理
8. 中間試験
9. 述語論理
10. 整数の基本的概念
11. 拡張ユークリッドの互除法
12. 群
13. 環と体
14. 離散数学のその他の話題
15. 期末試験

[キーワード] 情報数学、離散数学

[教科書・参考書] 教科書：工学のための離散数学，黒澤馨，数理工学社 (予定)。

[評価方法・基準] 中間試験、期末試験、及び講義中に行う小テスト

[履修要件] 特になし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H069001

授業科目名：リモートセンシング工学
 科目英訳名：Remote Sensing Technology
 担当教員：久世 宏明, Josaphat T. Sri Suman, 建石 隆太郎
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年前期金曜 2 限
 授業コード：T1H069001
 講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

2006 年入学生：専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 地球環境をターゲットとしたリモートセンシングによる情報抽出の技術的基礎について、環境リモートセンシング研究センター所属の教員が分担して講義する。

[目的・目標] (1) 衛星観測を中心としたリモートセンシングについて知ろう (2) リモートセンシングの学際的特徴について知ろう (3) 衛星画像情報の解析について知ろう (4) マイクロ波によるリモートセンシングについて知ろう

[授業計画・授業内容] リモートセンシング技術の概観、リモートセンシングによって得られる環境情報、応用例、データ処理手法、リモートセンシングと地球大気、リモートセンシングの基礎をなす物理過程、地上検証、土地被覆モニタリングへの応用、マイクロ波リモートセンシングの原理など

1. 衛星リモートセンシングと地上検証 可視領域
2. 衛星リモートセンシングと地上検証 マイクロ波領域
3. 衛星画像における大気の効果
4. 衛星画像データの処理と分類 1
5. 衛星画像データの処理と分類 2
6. 黒体放射 太陽光スペクトルと地球からの熱放射
7. 地球環境と大気 Excel による計算
8. 大気分子とエアロゾルの影響評価 気候変動とのかかわり
9. 地上検証法 光学計測でどのように大気を測るか
10. 電磁波・合成開口レーダ (SAR) の概要
11. レーダ方程式とマイクロ波の特性
12. パルス圧縮技術とレンジ方向の画像生成
13. 合成開口技術とアジマス方向の画像生成
14. SAR 画像解析の基礎
15. まとめ

[教科書・参考書] 下記のような参考書を挙げておきます。興味や必要に応じて参照してください。・日本リモートセンシング研究会編 図解リモートセンシング 日本測量協会・長谷川均著 リモートセンシング解析の基礎、古今書院・田中邦一ほか著 フォトショップによる衛星画像解析の基礎、古今書院・リモートセンシングの基礎、Rees 著、久世他訳、森北出版

[評価方法・基準] 出席・レポート

[備考] 注意：受講生の人数によっては教室を環境リモートセンシング研究センター 1 F の講義室に変更しますので、注意してください。

T1H018001

授業科目名：オペレーティング・システム

科目英訳名：Operating System

担当教員：北神 正人

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年前期金曜 3 限

授業コード：T1H018001

講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 最大 150 人程度

[授業概要] 計算機システムを実際に構築するまでを学ぶ。このために、まずプロセッサから計算機システム自身のアーキテクチャまでを学び、さらに計算機を動作させるために必要な基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。

[目的・目標] 計算機を実際に構成する際に必要となる基本的知識を理解し、さらに計算機を高性能化するために用いられる技術について知識を深めることを目的とする。また、オペレーティングシステムの構成要素の論理構造、実現方法を学ぶことにより、実際に同等のシステム設計が可能となるための知識を習得する。

[授業計画・授業内容] 前半に計算機システムに関して学び、後半にオペレーティングシステムについて学ぶ。

1. 命令セット
2. プロセッサ設計法
3. 入出力アーキテクチャ

4. メモリアーキテクチャ
5. 先進的プロセッサアーキテクチャ
6. 並列計算機アーキテクチャ
7. 中間試験
8. OS の基本概念
9. プロセス管理
10. メモリ管理
11. ファイルシステム
12. 入出力管理
13. デッドロック
14. 先進的 OS 概論
15. 期末試験

[キーワード] 計算機アーキテクチャ、マイクロプロセッサ、並列計算機、オペレーティングシステム、コンピュータネットワーク、分散 OS、並列 OS、マイクロカーネル

[評価方法・基準] 中間試験と期末試験、および毎回の小テストで評価する

[履修要件] 特になし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H049001

授業科目名：画像光エレクトロニクス 科目英訳名：Introduction to Optical Electronics 担当教員：尾松 孝茂 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H049001	開講時限等：4 年前期金曜 4 限 講義室：工 9 号棟 206 教室
---	--

科目区分
(未登録)

[授業の方法]

[目的・目標] 電磁気学を基本として、光と物質の相互作用(分極、吸収、光波結合)について解説する。また、これらの光と物質の相互作用がデバイスとして利用されている具体的な例を示すとともに、画像工学との関わりについて概説する。

[授業計画・授業内容] 第 1-4 回 マックスウェル方程式と波動方程式・波動としての光の振舞い第 5-8 回 光波の干渉・回折・コヒーレンス関数第 9-12 回 フーリエ変換・フーリエ光学・光学的画像情報処理第 13-14 回 超短パルスレーザーと時空間情報処理第 15 回 総括

[教科書・参考書] 第 1 回目の授業にて参考書を紹介する。

[評価方法・基準] 試験と数回の演習と模範実験に対するレポート提出による総合点

[履修要件] 特になし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H119001

授業科目名：画像制作実習 科目英訳名：Practical training of picture making 担当教員：(鈴木 建男) 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H119001	開講時限等：4 年前期金曜 5 限 講義室：工 9 号棟 206 教室
---	--

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 約 20 名

[受講対象] 2003 年度以前入学の情報画像工学科学生のみ

[授業概要] カメラのファインダーを通してモノを見方・切り取り方、光の見方・方向性を検証し、撮影したデジタル画像を Adobe-Photoshop の加工によって表現領域を広げます。

[目的・目標] 撮影されたアイテムをどのように感性表現として増幅する事ができるのかを可能な限り検証してゆきます。各人が異なる色、形の感じ方を構成的に捉え、その制作された作品をアートまで高めてゆきます。

[授業計画・授業内容] この授業は撮影実習を通して感性表現とは何かと言う事を学びます。日常に有るモノ、現象を光、カメラの機能によって学生諸君が実際にデジタルカメラでスタジオ撮影をして「感じる写真とは何か」「美しい光とは何か」を検証します。作品の品質偉観によって作品を開催します。感性表現を考える制作重視の授業です。

1. オリエンテーションと撮影実習説明
2. 撮影実習 自然の色と形
3. 作品総評と次回撮影実習説明
4. 撮影実習 紙と釘
5. 作品総評と次回撮影実習説明
6. 撮影実習 ポートレート
7. 作品総評と次回撮影実習説明
8. 撮影実習 反射物の美しい表現
9. 作品総評と次回撮影実習説明
10. 撮影実習 透過物と 1 / 1000 秒の世界 (美しい瞬間の動き)
11. 作品総評と adobe-photoshop の説明
12. photoshop による画像制作演習
13. 作品総評と powerpoint によるプレゼン方法と制作
14. powerpoint による前期作品発表
15. 作品展用プリント制作

[評価方法・基準] 出席点および作品の評価点で成績をつける。

[履修要件] なし

[備考] 写真データ保存用 USB メモリーを用意する事 (2 G 以上が好ましい) 。

T1H038001

授業科目名 : ソフトウェア設計論

(千葉工大開放科目)

科目英訳名 : An overview of the methodologies for software specification and design

担当教員 : 大澤 範高

単位数 : 2.0 単位

開講時限等: 3,4 年前期木曜 2 限

授業コード : T1H038001

講義室 : 工 15 号棟 110 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

2007 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 4 年生または 3 年生

[授業概要] ソフトウェア開発におけるオブジェクト指向分析・設計を中心として、ソフトウェア工学の基礎を学習する。

[目的・目標] ソフトウェアシステムの設計ができ、専門的知識を有する人と円滑にコミュニケーションや議論ができる能力の養成を目的とする。次の基礎知識の習得を目標とする: (1) ソフトウェア設計の方法論、(2) オブジェクト指向分析・設計、(3) モデル表現法

[授業計画・授業内容]

1. 序論
2. ソフトウェアプロセス
3. 要求分析
4. モデル化技法
5. オブジェクト指向

6. 統一モデリング言語 (UML)
7. ユースケース
8. 静的モデル
9. 動的モデル
10. デザインパターン
11. プログラミング
12. 検証
13. 保守・発展
14. 期末試験
15. 補足および歴史

[キーワード] ソフトウェア設計法, モデル化, オブジェクト指向, UML, デザインパターン

[教科書・参考書] 教科書は指定しない。参考書: 玉井哲雄著「ソフトウェア工学の基礎」(岩波書店) ダン パイロン, ニール ビットマン著「UML2.0 クイックリファレンス」(オライリージャパン) エリック ガンマ, ラルフ ジョンソン, リチャード ヘルム, ジョン プリシディース著「オブジェクト指向における再利用のためのデザインパターン」(ソフトバンククリエイティブ)

[評価方法・基準] レポートや授業内での小テストなどの平常点、および期末試験の成績を総合して行う。

[履修要件] 何らかのプログラミング経験を有すること。

T1H106001

授業科目名: メディアアート

科目英訳名: Media Art

担当教員: (串山 久美子)

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1H106001

開講時限等: 4 年後期月曜 3 限

講義室: 工 17 号棟 111 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義・実習

[目的・目標] 情報ハイウェイ、マルチメディア時代に適応する映像クリエイターとして、現代映像現場の諸技術を総合的に理解させ、その知性と感性を磨き、新しい 21 世紀をになう映像作家を育てるような内容。

[授業計画・授業内容]

[教科書・参考書] 「映画撮影技術ハンドブック」(写真工業出版社); 「新ビデオ技術マニュアル」(写真工業出版社)

[評価方法・基準]

T1H052001

授業科目名: 結像光学基礎

科目英訳名: Fundamentals of Imaging Optics

担当教員: 椎名 達雄

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1H052001

開講時限等: 4 年前期月曜 4 限

講義室: 工 15 号棟 110 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 他学部生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 光の理解に関して、幾何光学、波動光学、量子力学的解釈を時代を追って講義する。数学的な扱いだけでなく、時代背景を踏まえた内容で講義する。

[目的・目標] 「幾何光学」としての光線、「波動光学」としての光波を理解し、その基礎と応用技術について学習する。
一般目標: 光学の基礎を概観すること達成目標: 幾何光学、波動光学、ならびに光の波動性と粒子性との理解ができるようにすること

[授業計画・授業内容] 「幾何光学」としての光線を、その振舞いに始まり、レンズの決像作用、組合せレンズの扱い、収差に関して学習する。めがね、顕微鏡、望遠鏡といった光学機器の構成と技術について講義する。「波動光学」としての光波を理解し、その基礎と応用技術について学習する。干渉計を使った計測技術、コーティング、回折によるスポットサイズの制約等について講義する。「光学の発展」として光の量子力学的解釈についてその導入を講義する。

1. 光の理解の歴史を概観。
2. 光の理解の歴史を概観。その2
3. 光線の振舞い。
4. 単レンズによる結像作用。
5. 肉薄レンズの利用。めがねレンズ。
6. 組合せレンズ。顕微鏡。
7. 組合せレンズ。望遠鏡。
8. レンズ収差。
9. 干渉。
10. 干渉。その2 干渉計による計測技術。コーティング。
11. 回折。
12. 回折。その2。スポットサイズの制約。
13. 光学の発展。量子力学の基礎。
14. 光学の発展。量子化としてのレーザ、ファイバ技術。
15. 幾何光学、波動光学、量子力学的解釈のまとめ。
16. 試験。

[キーワード] 幾何光学、波動光学、レンズ、収差、干渉、回折

[教科書・参考書] 教科書はプリントを配布する。

[評価方法・基準] 出欠、演習課題ならびに試験の成績で評価する。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H051001

授業科目名： 視覚工学概論 II 科目英訳名： Introduction to vision science II 担当教員： 富永 昌二 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H051001	開講時限等： 4 年後期月曜 4 限 講義室： 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 画像の獲得，処理，再現に必要な色彩学の基礎及びコンピュータによるカラー画像の情報処理への応用について講述する。

[目的・目標] 近年の映像情報化社会への変革と情報技術の進展により，色彩に関する知識が多く分野で必要とされるようになった．つまりカラーデバイスの高機能化とネットワークの普及によって多様な色彩メディアが発生し，誰でも手軽に大規模カラー画像を扱うようになってきた．本講では，このような情報化に即応した「情報色彩学」を学ぶことを目的とする．まず人間の視覚系のしくみと色覚のメカニズムを知る．次に色彩の心理面の知識を得て，色知覚現象に対する理解を深める．また色を数量化するために，表色系と測色の理論を修得する．さらにカラー画像の色再現の原理と方法について理解する．最近のカラーマネージメントについても言及する．

[授業計画・授業内容]

1. 光と色
2. 人間の視覚系の構造と機能
3. 明るさと色覚のメカニズム
4. 色の心理的効果
5. カラーオーダーシステム

6. 色名による表色
7. 色の数量化と測色理論
8. CIE-XYZ 表色系
9. 均等色空間と色差
10. デジタルカメラによるカラー画像取得
11. カラー画像の表色と解析
12. ディスプレイでの色再現
13. プリンタでの色再現
14. 色の見えとカラーマネージメント
15. 期末テスト

[キーワード] 情報色彩学, 色覚, 測色, 表色, 色再現, カラー画像, 色彩心理

[教科書・参考書] 適宜プリントを配布する。参考書: 色彩科学ハンドブック, 日本色彩学会編, 東京大学出版会

[評価方法・基準] 出席状況, レポート, 期末試験を総合して評価する。5.9 点以下は不可。

T1Z051001

授業科目名: 工学倫理

科目英訳名: Engineering Ethics

担当教員: 森永 良丙

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1Z051001

開講時限等: 3,4 年後期月曜 5 限

講義室: 105 講義室

(「105 講義室」は法経学部棟の講義室である。)

科目区分

2006 年入学生: 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K3:都市環境システム学科 (先進科学), T1K4:メディカルシステム工学科 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学), T1M:共生応用化学科, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

2007 年入学生: 専門基礎選択必修 E20 (T1E:都市環境システム学科, T1F4:デザイン工学科 A コース (建築), T1J:都市環境システム学科, T1J1:都市環境システム学科 (環境), T1J2:都市環境システム学科 (メディア), T1K8:デザイン工学科建築系 (先進科学), T1L:メディカルシステム工学科), 専門基礎選択 E30 (T1F5:デザイン工学科 A コース (意匠)), 専門選択必修 F20 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1M1:共生応用化学科生体関連コース, T1M2:共生応用化学科応用化学コース, T1M3:共生応用化学科環境調和コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 工学部 2~4 年次 (学科により指定あり)。

[授業概要] 工学は科学・技術のさまざまな成果を活かし, 我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学問である。しかし, その使用の方向, 利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ, ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では, 社会との関係における工学者の使命, 規範, 役割, 権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において, 正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 実際の開講時には変更になる可能性があります。

1. ガイダンス (10 分) 倫理とは (高橋 久一郎: 千葉大学文学部)
2. 工学倫理の特徴 (忽那 敬三: 千葉大学文学部)
3. ネットワーク倫理 (全 へい東: 千葉大学総合メディア基盤センター)
4. 資源エネルギー消費と環境倫理 (町田 基: 千葉大学総合安全衛生管理機構)
5. 企業活動と知的財産権 (渡辺 隆男 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
6. 技術者の知的所有権等財産的権利 (1) (高橋 昌義 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)
7. 技術者の知的所有権等財産的権利 (2) (高橋 昌義 弁理士/千葉大学非常勤講師・知的財産機構)

8. 組織における工学者の倫理 (中込 秀樹: 千葉大学大学院工学研究科)
9. 職能倫理としての工学倫理 (土屋 俊: 千葉大学文学部)
10. 生命倫理 (田村 俊世: 千葉大学大学院工学研究科)
11. 製造物責任 (PL) 法 (1) (小賀野 晶一: 千葉大学法経学部)
12. 製造物責任 (PL) 法 (2) (小賀野 晶一: 千葉大学法経学部)
13. 安全とリスク (1) (篠田 幸信: NTT アドバンステクノロジー社)
14. 安全とリスク (2) (篠田 幸信: NTT アドバンステクノロジー社)
15. 千葉大学ロボット憲章 (野波 健蔵: 千葉大学大学院工学研究科) まとめ (10 分)

[キーワード] 工学者の使命, モラル, 義務, 規範, 技術者倫理

[評価方法・基準] 毎回, 講義の最後に小テストを実施し, その結果を踏まえて判定します。12 回以上出席しないと, 単位認定できませんので注意してください。

[履修要件] 各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし, 表示がない場合は各学科教育委員に確認してください。

[備考] 講師の都合により順番, 内容に関して変更する場合があります。1 回目の授業の初めに行うガイダンスに必ず出席して下さい。

T1H085001

授業科目名: 画像高分子物性論

科目英訳名: Material Science of Polymers

担当教員: 小林 範久

単位数: 2.0 単位

授業コード: T1H085001

開講時限等: 4 年後期火曜 1 限

講義室: 工 9 号棟 107 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 存続科目「画像記録材料」を見よ。

[受講対象] 存続科目「画像記録材料」を見よ。

[授業概要] 存続科目「画像記録材料」を見よ。高分子物質は、その物性を生かして金属やガラスなどに置き換わる材料として、また新しい機能を持つ材料として様々な分野で利用されている。それらの機能を発現する高分子の物性について、画像の分野での利用と関連づけながら解説する。高分子化学の基礎についても解説する。

[目的・目標] 存続科目「画像記録材料」を見よ。高分子物質の光学的な物性、熱物性、電気物性などについて、画像の分野での利用と関連づけながら解説する。特に透明性の高い光学材料や高屈折率のプラスチックレンズなどを設計するための高分子材料の設計指針、さらに微細加工用の耐熱性に優れたフォトポリマー材料を設計するための設計指針などを理解してもらうことを講義の目的とする。

[授業計画・授業内容] 存続科目「画像記録材料」を見よ。1. はじめに～画像分野に於ける高分子物性について 2-3. 高分子化学 (1-2) 4. 高分子の分子量特性と材料物性 5-7. 高分子材料の光学物性 (1-3) 8-9. 高分子材料の熱物性 (1-2) 10. 光反応性高分子におけるガラス転移温度の重要性について 11. 高分子材料の電気物性 画像材料との関わり 12. 高分子液晶などにおける材料物性 13. 高分子材料の物性評価方法 14. 計算機による高分子物性予測 15. テスト

1. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
2. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
3. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
4. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
5. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
6. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
7. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
8. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
9. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
10. 存続科目「画像記録材料」を見よ。

11. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
12. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
13. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
14. 存続科目「画像記録材料」を見よ。
15. 存続科目「画像記録材料」を見よ。

[教科書・参考書] 存続科目「画像記録材料」を見よ。「基礎高分子化学」(朝倉書店)、「色材物性工学」(丸善)、「高分子の光物性」(共立出版)ほか、講義の中で紹介

[評価方法・基準] 存続科目「画像記録材料」を見よ。

[関連科目] 存続科目「画像記録材料」を見よ。

[履修要件] 存続科目「画像記録材料」を見よ。なし

[備考] 存続科目「画像記録材料」を見よ。2001年以前の入学学生のみ履修可 2002年以降入学学生は履修できない。

T1H078101

授業科目名：画像記録材料

科目英訳名：Image Recording Materials

担当教員：小林 範久

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年後期火曜 1 限

授業コード：T1H078101

講義室：工 9 号棟 107 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 金属の代替材料として開発された高分子は、分子設計の多様さを生かし、現在他物質を凌駕する特性を発現するに至っている。ここでは、特に情報・画像産業に必要な機能を発現する高分子材料の特徴、構造、物性を身近な例を挙げて説明する。

[目的・目標] 情報画像産業のみならず身近にあるデバイスやシステム、物質社会において高分子材料がどのような役割をになっているか、どのような特徴が要求されるか、身近な例を具体的に示しながら講義する。それらシステムにおける高分子材料の重要性を理解し、目的にあった高分子を設計・合成するとはどういうことなのか、高分子材料設計の基本的な考え方の習得を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 序論 - 高分子は金属を超えたか？高分子と機能性 -
2. 身の回りの高分子
3. 情報・画像産業における高分子
4. 柔らかいプラスチックと硬いプラスチック
5. 機械特性に優れた高分子 (基礎)
6. 機械特性に優れた高分子 (情報・画像への展開)
7. 分離機能、センシング機能を有する高分子
8. 電子機能性に優れた高分子 (基礎)
9. 電子機能性に優れた高分子 (情報・画像への展開)
10. 光機能性に優れた高分子 (基礎)
11. 光機能性に優れた高分子 (情報・画像への展開)
12. 生命情報伝達を担う高分子
13. 高分子で生体を模倣する
14. 高分子と未来材料
15. テスト

[キーワード] 熱・電気・光記録、画像表示システム、静止画・動画システム、光電機能材料

[教科書・参考書] 高分子機能材料など、初回に紹介する。

[評価方法・基準] 試験により総合的な理解度を問う。たとえば、身の回りには様々な高分子が使われている。その高分子の役割や必要性を説明できる程度の理解力を望む。

[関連科目] 現象論に関連する化学、物理系科目

[履修要件] 高分子、有機化学関連の授業を履修済みであることが望ましい。

[備考] 2001 年以前の入学学生のみ履修可 2002 年以降入学学生は履修できない

T1H124001

授業科目名：マルチメディア情報処理

科目英訳名：Multimedia Information Technology

担当教員：今泉 貴史

単位数：2.0 単位

授業コード：T1H124001

開講時限等：4 年後期火曜 2 限

講義室：総 A4F 情報処理演習室 2
(総合校舎 A 号館 4 階)

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 10

[授業概要] コンピュータを道具として使いこなすために表計算ソフトウェアについて学ぶ。また、コンピュータプログラミングを学ぶ準備として、プログラミング言語 C について学ぶ。

[目的・目標] コンピュータは勝手に必要な計算を行ってくれるものではなく、ユーザが計算の仕方を指定しなければならない。そのためのソフトウェアとして表計算ソフトウェアを取り上げ、複雑な処理を計算として指定する方法について学ぶ。また、プログラミング能力の基礎を身につけるために C 言語の構文などを学ぶ。この講義と合わせ、第 3 セメスターの「プログラムの設計と実現」でプログラミングを学習することにより、C 言語によるプログラミングを一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 前半で表計算ソフトウェアについて学習し、後半では C 言語について学習する。

1. ガイダンス
2. 表計算ソフトウェア (1)
3. 表計算ソフトウェア (2)
4. 表計算ソフトウェア (3)
5. 表計算ソフトウェア (4)
6. 表計算ソフトウェア (5)
7. プログラミング
8. C 言語の基礎
9. エディタ
10. 変数・型
11. 制御構造 (1)
12. 制御構造 (2)
13. 制御構造 (3)
14. 配列
15. 期末試験

[キーワード] 表計算ソフトウェア, C 言語, プログラミング

[教科書・参考書] 教科書: 「新しい大学情報リテラシー」、オーム社、千葉大学情報処理教科書編集委員会 編、1,785 円、ISBN4-274-20224-0 教科書: 「新版 明解 C 言語」、ソフトバンクパブリッシング、柴田望洋 著、2,200 円、ISBN4-7973-2792-8 参考書: 「基本情報技術者試験 らくらく突破 C 言語」、技術評論社、高田美樹 著、2,604 円、ISBN4-7741-1609-2

[評価方法・基準] 講義の中で行う演習課題、および、期末試験に基づき評価する

[備考] 2004 年度以降の入学学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H008001

授業科目名：情報数学 2
 科目英訳名：Mathematics for Information Science 2
 担当教員：松葉 育雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年後期火曜 2 限
 授業コード：T1H008001
 講義室：工 15 号棟 110 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 2 年次

[授業概要] 情報工学に必要な確率論，および確率の応用を理解すること

[目的・目標] 情報の数理構造を理解するためには，確率論の基礎を理解することが不可欠である．情報理論の基礎となる確率から確率過程へと理解を深め，さらに情報工学への応用など講述する．

[授業計画・授業内容] 教科書に従って，確率の基礎概念，不確定さを表す確率の表現方法，独立事象の概念，加法定理，乗法定理，事前確率，事後確率，ベイズの定理，確率変数の平均値，分散，相関関数，確率密度関数，分布関数，独立な確率変数の和の性質，中心極限定理，母関数と積率母関数，情報工学（探索アルゴリズムなど）での応用事例，不確定さと情報，統計を習得する．

1. 確率の基礎，順列と組合せ
2. 事象と確率
3. 加法定理と条件付確率
4. 分配則とベイズの定理
5. 事象の独立性とその応用
6. 2 項分布とその応用
7. 演習課題，近似理論，ガウス分布
8. 確率変数，確率密度，分布
9. 期待値，平均，分散
10. 確率変数の関数とその応用
11. 母関数，積率母関数
12. 母関数の応用
13. 情報工学（探索アルゴリズム）での応用事例
14. 統計（推定，検定）
15. 試験

[キーワード] 確率，加法定理，ベイズの定理，母関数，積率母関数，統計

[教科書・参考書] 教科書；松葉著，確率（シリーズ工学のための数学 5），朝倉書店

[評価方法・基準] 試験によって評価する。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H017001

授業科目名：オートマトン理論
 科目英訳名：Theory of Automata
 担当教員：堀内 靖雄
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：4 年後期火曜 5 限
 授業コード：T1H017001
 講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 「コンパイラとオートマトン」とあわせて最大 120 名

[授業概要] コンピュータはオートマトンのひとつである。本講義ではオートマトンについて理解することにより、計算するということはどういうことであるのかを学ぶ。また、オートマトンと言語理論の興味深い関係を理解する。最後に言語理論の応用としてコンパイラについて講義する。

[目的・目標] 計算機科学の基礎概念の一つであるオートマトンと言語理論についての基本的な理解を目的とする。デジタルコンピュータの計算はオートマトンで表現可能である。また、オートマトンは言語理論と密接な関係がある。本講義ではオートマトンの概念を理解することにより、計算論と言語理論の基礎を修得するとともに、応用として、コンパイラがプログラム言語を解析・コンパイルする過程を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容] 基本概念, 有限オートマトン, 決定性有限オートマトン, 非決定性有限オートマトン, 正則表現 (正則表現とオートマトン), 正則言語の性質, 文脈自由文法とその性質, プッシュダウンオートマトン (プッシュダウンオートマトンと文脈自由言語), コンパイラ, 字句解析, 構文解析

1. 有限オートマトンと状態遷移図: オートマトンは難しくない!
2. 決定性有限オートマトン (DFA): オートマトンの計算と言語の受理は同じこと!
3. 非決定性有限オートマトン (NFA) は DFA と等価: 有限の世界では非決定性は決定性と同じ!
4. \neg NFA: は無料で飛べる裏技! しかも \neg NFA も実は決定的であった!
5. 正則表現 (RE) とオートマトン: 正則表現は再帰定義! RE は実は DFA と同じだった!
6. DFA の最小化: 本当に小さいオートマトンはただ一人!
7. 文脈自由文法 (CFG) とプッシュダウンオートマトン (PDA): 文法が言語を決める!
8. PDA と CFG: ぜんぜん違うように見えても実は一緒!
9. 中間テスト (オートマトン)
10. コンパイラ概論: コンパイラが人間とコンピュータの間を埋める!
11. 字句解析: プログラムを読むのはオートマトン!
12. トップダウン構文解析: 無限ループと後戻りはしたくない!
13. LL(1) 文法: ころばぬ先の一語先読み!
14. 期末テスト (コンパイラ)
15. チューリングマシン (TM): すべてのコンピュータは TM に至る!

[キーワード] オートマトン, 言語理論, 正則言語, 文脈自由言語, コンパイラ, 構文解析

[教科書・参考書] J. ホップクロフト他, 野崎他訳, オートマトン言語理論計算論 I, サイエンス社, 中田育男著, コンパイラ, オーム社出版局 (購入に関しては講義時に助言)

[評価方法・基準] 出欠状況, 中間テストと期末テストの成績によって評価

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H066201

授業科目名: 画像解析

(千葉工大開放科目)

科目英訳名: Design and Evaluation of Image Quality

担当教員: (犬井 正男)

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 4 年後期火曜 4 限

授業コード: T1H066201

講義室: 工 5 号棟 204 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法]

[目的・目標] 写真、印刷、デジタルプリントなどのカラ - 及び白黒ハードコピー画像の画質 (調子再現、色再現、シャープネス、ノイズ、など) について、画質の要因、評価方法、および設計について講義する。

[授業計画・授業内容] 1、2 回:概要、測色、3 ~ 5 回:センシトメトリー、6 回:調子再現、7 ~ 10 回:色再現、11 ~ 13 回:シャープネス、14 回:ノイズ、15 回:像構造に関する総合評価値

[キーワード] 画像解析、画像評価、画像設計、カラーハードコピー、写真、印刷、デジタルプリント、調子再現、階調、測色、色再現、シャープネス、解像力、MTF、ノイズ、粒状度、NWS、情報容量

[教科書・参考書] 「カラーハードコピー画像における画像評価とその応用」(犬井正男著、生協書籍部にて販売)

[評価方法・基準] 調査、検討、計算などの課題に対するレポートにより評価を行う。

T1H112001

授業科目名：印刷工学
 科目英訳名：Graphic Technology
 担当教員：小関 健一
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H112001

開講時限等：4 年後期火曜 4 限
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] プリンティング技術は、情報の大量複製技術として使われている従来型の印刷技術から、版を用いない無版印刷や、可変情報を高速にプリントするオンデマンド印刷、更にはディスプレイをはじめとする電子部品や、ナノメートルスケールの印刷へと大きく進化し続けている。それら各種プリンティング技術のプロセスからマテリアルまでを科学的に解説する。

[目的・目標] プリンティング技術は情報伝達にとって基本的、かつ重要な技術である。デジタル情報のプリプレスから印刷に至るプロセス、それを支える様々なマテリアルを理解し、また新しいプリンティング技術の科学を理解することを目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 序・プリンティング技術が関与する科学
2. (コンベンショナル) 印刷プロセス I
3. (コンベンショナル) 印刷プロセス II
4. (コンベンショナル) 印刷プロセス III
5. 印刷材料 (インキ、版)
6. コンピュータ トウ …… テクノロジー (CTP) I
7. コンピュータ トウ …… テクノロジー (CTP) II
8. コンベンショナル印刷のまとめと中間テスト
9. インクジェットプリンティング技術 I
10. インクジェットプリンティング技術 II
11. 無版印刷技術
12. ナノインプリンティング技術
13. ナノプリンティング技術
14. プリンティング技術の電子デバイス分野への応用
15. 試験

[キーワード] 印刷技術、CTP、オンデマンド印刷、デジタルプリンティング、インクジェットプリンティング、ノンインパクトプリンティング、ナノプリンティング、プリンタブルエレクトロニクス

[教科書・参考書] 講義資料を配付する。

[評価方法・基準] 出席、レポート、中間テスト、期末テストなどにより総合的に評価する。

[履修要件] 特になし。

[備考] 2004 年度以降の入学者については、この科目の単位を卒業要件単位としては認めない。講義名は「印刷工学」ですが、内容は新しい「プリンティング工学」です。

T1H124002

授業科目名：マルチメディア情報処理
 科目英訳名：Multimedia Information Technology
 担当教員：今泉 貴史
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H124002

開講時限等：4 年後期火曜 4 限
 講義室：総 A4F 情報処理演習室 2
 (総合校舎 A 号館 4 階)

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[受入人数] 10

[授業概要] コンピュータを道具として使いこなすために表計算ソフトウェアについて学ぶ。また、コンピュータプログラミングを学ぶ準備として、プログラミング言語 C について学ぶ。

[目的・目標] コンピュータは勝手に必要な計算を行ってくれるものではなく、ユーザが計算の仕方を指定しなければならない。そのためのソフトウェアとして表計算ソフトウェアを取り上げ、複雑な処理を計算として指定する方法について学ぶ。また、プログラミング能力の基礎を身につけるために C 言語の構文などを学ぶ。この講義と合わせ、第 3 セメスターの「プログラムの設計と実現」でプログラミングを学習することにより、C 言語によるプログラミングを一通りマスターすることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 前半で表計算ソフトウェアについて学習し、後半では C 言語について学習する。

1. ガイダンス
2. 表計算ソフトウェア (1)
3. 表計算ソフトウェア (2)
4. 表計算ソフトウェア (3)
5. 表計算ソフトウェア (4)
6. 表計算ソフトウェア (5)
7. プログラミング
8. C 言語の基礎
9. エディタ
10. 変数・型
11. 制御構造 (1)
12. 制御構造 (2)
13. 制御構造 (3)
14. 配列
15. 期末試験

[キーワード] 表計算ソフトウェア, C 言語, プログラミング

[教科書・参考書] 教科書: 「新しい大学情報リテラシー」、オーム社、千葉大学情報処理教科書編集委員会 編、1,785 円、ISBN4-274-20224-0 教科書: 「新版 明解 C 言語」、ソフトバンクパブリッシング、柴田望洋 著、2,200 円、ISBN4-7973-2792-8 参考書: 「基本情報技術者試験 らくらく突破 C 言語」、技術評論社、高田美樹 著、2,604 円、ISBN4-7741-1609-2

[評価方法・基準] 講義の中で行う演習課題、および、期末試験に基づき評価する

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H076001

授業科目名: 基礎界面化学	(千葉工大開放科目)
科目英訳名: Fundamental Surface Science	
担当教員: (松村 英夫)	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 4 年後期火曜 5 限
授業コード: T1H076001	講義室: 工 9 号棟 206 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義

[受講対象] 3 年生と 4 年生

[授業概要] 界面化学・コロイド科学の基礎について国際レベルの内容を判りやすく説明する。

[目的・目標] 界面科学及びコロイド科学の基本事項について直感を養う。

[授業計画・授業内容] 講義の予定は以下の様であるが、多少の順序の変更や理解度等を鑑み重点化・簡素化する場合もある。

1. 界面化学序論、界面の特徴、表面張力、コロイド化学との関係

2. コロイドの分類と特性 (I)、サスペンション、エマルジョン、ミセル、リポソーム、膜など、ブラウン運動、拡散、
3. コロイドの特性 (II)、沈降、浸透圧、光学的特性、電気的特性、粘性
4. 分子集合系のコロイド、界面活性剤溶液、ミセル、ベシクル、リポソーム、ギブスの式
5. 分子集合系の膜、単分子膜、LB膜、2分子膜
6. 界面電気現象の理論的背景、電気化学ポテンシャル、分極性界面、表面電荷・表面電位、電気二重層、ドナnpテンポテンシャルなど
7. 界面電気(動電)現象の測定、ゼータ電位、電気泳動、流動電位、電気浸透流、分散系の電気伝導など
8. 分子間相互作用、静電相互作用、電気双極子相互作用、分散相互作用、疎水・親水相互作用など
9. 粒子間相互作用と分散安定性、DLVO理論、電気二重層間相互作用、分散・凝集、凝集速度論
10. 高分子吸着と分散・凝集、ブリッジング、デブリーション、表面間力測定
11. 吸着現象、固体/気体、固体/液体、吸着等温線(Langmuir, BET), 吸着等温線とぬれ
12. 濡れ性、表面張力、接触角、ヤングの式、不均一表面の濡れ
13. 表面曲率と毛管現象、ラプラスの式、毛管凝縮
14. 補遺 と 最近の話題(超撥水性など)
15. 総合・評価

[キーワード] 微粒子、ナノパーティクル、表面、界面、コロイド、分子間力、粒子間力、DLVO理論、界面電気、動電現象、濡れ、接触角、超撥水性、吸着、膜、ゼータ電位、分散・凝集、高分子吸着

[教科書・参考書] 主な参考書: 界面・コロイド化学の基礎: 北原文雄、講談社 (その他、参考になる文献): コロイドの話: 北原文雄、培風館 分散・乳化系の化学: 北原文雄・古澤邦夫、工学図書エベレットコロイド科学の基礎: 橘高茂治/[ほか]共訳、化学同人 分子間力と表面力: 近藤保/大島広行/訳、朝倉書店

[評価方法・基準] ノートの提出、レポート、課題提出型テストの3点により評価(出席やミニレポートにより補充)

T1H080001

授業科目名: 画像物理化学 科目英訳名: Photographic Physical Chemistry 担当教員: 柴 史之 単位数: 2.0 単位 授業コード: T1H080001	開講時限等: 4 年後期水曜 2 限 講義室: 工 5 号棟 104 教室
--	--

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 原則として3年生「光物性基礎」を履修済みであることが望ましい。2年生の受講も認めるが、その場合は「基礎化学A」、「同B」、「化学基礎実験」を履修済みであること。3年生の場合もこれらが履修済みであることが望ましい。

[授業概要] 物質の存在量や構造情報といった「化学情報」を取り出すインターフェースという観点から、物質の構造情報等を得るための各種の分光計測法を解説し、物質センシングの基礎と応用について述べる。

[目的・目標] 材料・物質の基本的な性質の解明の手段として、また環境計測やプロセス管理などできわめて重要となる、「物質の持つさまざまな情報を取り出す」ための手法と原理を理解することを目的とする。あわせて物質の構造と性質・機能の関係についても再考する。

[授業計画・授業内容]

1. 序論
2. 微小構造の拡大観察 I: 光学顕微鏡・電子顕微鏡
3. 微小構造の拡大観察 II: プローブ顕微鏡
4. 電磁波と分子の構造情報 I: 紫外可視吸収と蛍光
5. 電磁波と分子の構造情報 II: 赤外吸収とラマン散乱
6. 電磁波と分子の構造情報 III: マイクロ波吸収と磁気共鳴
7. その他の光を利用した分析法
8. 回折現象と構造規則性

9. 組成分析
10. 質量分析
11. 熱分析
12. 物質の分離：クロマトグラフィー
13. 電気化学分析
14. その他の話題
15. 試験

[キーワード] 分子構造, 結晶構造, 表面構造, 機器分析, 分析化学, 化学計測

[教科書・参考書] 教科書：特になし

[評価方法・基準] 期末試験を基本とする。その他、随時、各事項のまとめを兼ねた小テストまたは宿題を課し、その結果も加味する。細かな事項の記憶より、物理現象や化学現象の基本的理解と、それをどのように利用できるかの理解を重視する。

[履修要件] 「光物性基礎」を履修済みであることが望ましい。

T1H075001

授業科目名：基礎光化学 科目英訳名：Photochemistry 担当教員：久下 謙一 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H075001	開講時限等：4 年後期水曜 1 限 講義室：工 9 号棟 206 教室
--	--

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[受入人数] 90

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] 光の性質と、光と物質の相互作用について理解する。その基礎となる光の基礎的性質と、光の関係する物質の構造について学習する。

[目的・目標] マテリアル基礎科目の第二段階として、光が物質と相互作用するときの光物性の原理や応用性について理解を深め、画像の認識・記録などのプロセスの理解の基礎とする。

[授業計画・授業内容] 以下の順序に従い、授業を進める。毎回出席を兼ねた宿題を課す。宿題は翌週返却し、解説を加える。

1. 1. 光の本質、 1.1. 光とは：光の本質についての論争 1.2. 波動としての説明：Maxwell の電磁波理論
2. 1.3. 波動としての光の性質 波長 (振動数)、振幅・位相・偏光、
3. 1.4. 粒子としての説明：光量子仮説、 1.5. 波動と粒子の二重性：粒子の波動性
4. 1.6. 光の本質のまとめ 2. 電子の軌道とエネルギー準位、 2.1. 水素原子の軌道と発光スペクトル、
5. 2.2. 量子力学と Schrodinger 方程式の解、 2.3. 原子の軌道と水素原子スペクトル、
6. 2.4. 分子の軌道と化学結合、 2.5. 固体の軌道とバンド構造エネルギーの吸収
7. 3. 光の吸収、 3.1. 物体に入射した光、 3.2. 吸光度と Lambert-Beer の法則
8. 3.3. 光の吸収のメカニズム、 3.4. 吸収スペクトル、 3.5. 金属による反射
9. 3.6. 物体の色、 3.7. 視覚と色
10. 4. 光と物質との相互作用、 4.1. 光による物質の変化の種類、 4.2. 相互作用の過程
11. 4.3. 光化学の諸法則、 4.4. 光化学反応の反応速度
12. 4.5. 分子の光化学、 4.6. 結晶の光化学
13. 5. 発光、 5.1. 発光のメカニズム、 5.2. 放射熱によるもの
14. 5.3. 放電発光によるもの、 5.4. 電界発光によるもの
15. 試験

[キーワード] 電磁波、光量子、スペクトル、軌道、光学定数、電子励起、光電効果、光化学

[教科書・参考書] 教科書は特に指定しない。授業ノートを中心とする。高校で使用した物理と化学の教科書をすぐに見られるようにしておくように。

[評価方法・基準] 宿題と出席をもとに平常点を付ける。成績は平常点と試験点の平均点と、試験のみの点を比較し、高い方の点数で評価する。

[関連科目] 基礎化学 A の内容を充分理解しておくように。

[備考] 2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。2008 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H046001

授業科目名：写真システム基礎論

科目英訳名：Fundamentals of Photographic System

担当教員：小林 裕幸

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年後期水曜 2 限

授業コード：T1H046001

講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 銀塩写真からデジタル写真など、種々の写真法における画像の入力、ハードコピー出力、さらに画像の認知までを画質という観点から解説する。写真論、メディア論についても講義する。写真を多用する。

[目的・目標] 画像の入力から出力、さらに人間が認知するまでの基礎となる知識を得ることによって、写真システムを一貫して考えられる能力を身に付けることを目的としている。また、講義の中で多くの写真を見ることによって、写真を目が育つことを期待している。

[授業計画・授業内容]

1. 入力から認知まで
2. 人類はなぜ写真システムを築いてきたのか(メディアとしての写真)
3. 光源および被写体から反射される光の分光エネルギー分布(光源の分光エネルギー分布, 黒体放射), 感光材料に有効な光(分光感度)
4. 眼に有効な光 1. 明るさの表わし方
5. 眼に有効な光 2. 色の数値化
6. カメラ(ピンホールカメラ、アベックスシステム、被写界深度)
7. 記録デバイス&材料 1. CCD
8. 記録デバイス&材料 2. 銀塩感光材料
9. 記録デバイス&材料 3. CCD と銀塩の比較
10. ハードコピー 1. ハーフトーン(濃度変調, 面積変調)
11. ハードコピー 2. システムの具体例
12. 画質 1. 調子再現
13. 画質 2. 鮮鋭度, 粒状性
14. 写真の役割(写真論、記号論)
15. 試験

[キーワード] 像の記録・出力・認知、メディア論、写真論

[評価方法・基準] 毎回の小テスト(出席を兼ねる)と期末試験による。

[履修要件] 特になし

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像材料工学実験 III
 科目英訳名：Laboratory work in Imaging Materials III
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：4.0 単位 開講時限等：4 年後期水曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H095201, T1H095202, 講義室：工 情報画像学科 実験室
 T1H095203

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像システム工学実験 III
 科目英訳名：Laboratory work in Imaging System III
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：4.0 単位 開講時限等：4 年後期水曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H061201, T1H061202, 講義室：工 情報画像学科 実験室
 T1H061203

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学

2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講を認めない。

T1H072001

授業科目名：卒業研究 I 科目英訳名：Undergraduation Thesis Study I 担当教員：伊藤 秀男 単位数：4.0 単位 授業コード：T1H072001, T1H072002, T1H072003	開講時限等：4 年後期水曜 3,4,5 限 講義室：工 情報画像学科 実験室
---	---

科目区分

(未登録)

[授業の方法]

[目的・目標] 画像材料工学コース、画像システム工学コースにおける最も重要な科目のひとつと位置付けられ、実践的な力量、研究的な力量の両面を総合的に向上させることを目指す。各コース所属の学生全員に課せられ、基礎的な研究の手法や考え方を実践的・主体的に行う。「卒業研究」へ進む学生には履修のための導入的リサーチも行う。

[授業計画・授業内容] (各研究室を中心に主体的な実験や文献調査などによる最初の研究活動を行い、研究の報告など基本的なプレゼンテーションも行う。) 画像材料工学コースでは画像材料工学実験 I, II で習得した知識や実験技術をさらに向上させるため、全教官の指導のもとにさまざまな実験法や技術、画像工学の基礎と応用に関する知識を習得し、卒業研究を行う基礎とする。

[評価方法・基準]

[履修要件] 画像材料工学コース、画像システム工学コースに進学したものは全員が履修する。普遍教育科目の未修得単位数の合計が 10 単位以下であること。専門基礎科目の未修得単位数の合計が 8 単位以下であること。余剰単位をのぞき合計 86 単位以上履修していること。画像材料工学実験 I,II, または画像システム工学実験 I,II を履修していること。

[備考] 研究分野への配属についてはガイダンス等で指示する。2002 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H035001

授業科目名：情報工学実験 3 科目英訳名：Information Engineering Laboratories III 担当教員：伊藤 秀男 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H035001, T1H035002, T1H035003	開講時限等：4 年後期水曜 3,4,5 限 講義室：工 情報画像学科 実験室
---	---

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する。

[履修要件] 情報工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H116002

授業科目名：情報基礎英語 科目英訳名：Basic English in Information Science 担当教員：(太田 真智子) 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H116002	開講時限等：4 年後期水曜 4 限 講義室：工 17 号棟 211 教室
--	---

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。そして、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文を、深く細かく丁寧に読み解く訓練をします。また、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 情報基礎英語はどこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう

2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート推奨サブテキスト：コウビルド英英辞典改訂第 5 版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H100002

授業科目名：工業英語演習	
科目英訳名：Aspects of Technical English	
担当教員：(太田 真智子)	
単位数：2.0 単位	開講時限等：4 年後期水曜 4 限
授業コード：T1H100002	講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？ その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では、実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 工業英語はどこにあるのだろうか：科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろうか
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2

6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を發揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】 推奨サブテキスト：コウビルド 英英辞典改訂第 5 版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

T1H003001

授業科目名：画像工学概論 科目英訳名：Introduction to Image Science 担当教員：北村 孝司 単位数：2.0 単位 授業コード：T1H003001	開講時限等：4 年後期水曜 5 限 講義室：工 2 号棟 201 教室
--	--

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 情報画像工学科 (2003 年以前入学)

[授業概要] 情報画像工学科で学習する各分野の基礎知識について講述する。また、これから学習する内容が、社会においてどのような用いられているのかについても学習する。

[目的・目標] 情報分野では、情報工学、科学を学ぶ上での基礎知識を学習し、情報技術が社会に及ぼす影響を幅広い視野で考える力を身につける。特に、情報化が社会に及ぼす影響、情報技術を学ぶものが身に付けておかねばならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自分で学び続ける力を身に付ける。

[授業計画・授業内容]

1. 2 進数とデジタル信号
2. 論理回路
3. コンピュータの基本構成
4. ソフトウェアとアルゴリズム
5. 情報ネットワークの歴史とその特性
6. 情報化社会と著作権
7. 情報化社会におけるセキュリティー
8. 試験

[キーワード] 情報化社会、ネットワーク、著作権、情報倫理

[教科書・参考書] 特に指定しない。資料を配布する。

[評価方法・基準] 出席と試験で評価する。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像工学演習	
科目英訳名：Seminar in Image Science	
担当教員：(太田 真智子)	
単位数：2.0 単位	開講時限等：4 年後期水曜 4 限
授業コード：T1H042002	講義室：工 17 号棟 211 教室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] 前途と志のある情報画像工学科生として、さてこの先の英語学習にどのように取り組んでいけばよいのでしょうか？その具体的な答えを見つけるために、この授業では「良質なインプットなくして良質なアウトプットなし」を実践します。具体的には、読者対象と執筆目的が明確に設定された英文 (technical writing in English) を、深く細かく丁寧に読み解きます。この過程で得た発見を基に、読者を悩ませない、わかりやすい英文を書く準備をします。

[目的・目標] あなたの英語学習はこの先も長く続くでしょう。この授業が終わっても自分で自分を律して学び続けるための揺るぎない基盤をつくるのがこの授業の最終目標です。

[授業計画・授業内容] あなたは、現時点でのあなた自身の英語力を正しく把握していますか？自分に自分で問題を出しながら、英文を深く細かく丁寧に読めていますか？強く美しい英文を読んだとき、すかさず自分の引き出しにしまえていますか？英文を書くとき、その引き出しを自在にあけて、快く書き進めていますか？英語を読む、あるいは書く際に、日本語と英語を単語レベルで変換するだけではどうしてうまくいかないのでしょうか？これらの答を見つけるために授業では・ 実際に流通する英文を素材に講師が作成した資料を丁寧に読み解き、・ サブテキストとして推奨する英英辞典の活用方法を具体的に示しながら、・ 良きライターとなるための準備をします。【厚いノート】を一冊用意して授業に臨んでください。

1. 専門英語どこにあるのだろう：工業英語、科学英語、理系の英語... いろいろ呼び方はあるけれど、情報画像工学科生に必要な英語はどこにあるのだろう
2. テクニカルライティングとは何だろう
3. 良質なアウトプットの原料は何だろう
4. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 1
5. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 2
6. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 3
7. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 4
8. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 5
9. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 6
10. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 7
11. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 8
12. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 9
13. いまの力で読んでみよう・書いてみよう 10
14. 前期の成果を発揮しよう：期末試験実施 紙の英英辞典および各自の【厚いノート】のみ持ち込み可
15. 前期の成果を実感しよう：期末試験答案返却および講評

[キーワード] テクニカルライティング、自律的学習、英英辞典

[教科書・参考書] 必携テキスト：講師作成資料および各自が用意する【厚いノート】推奨サブテキスト：コウビルド英英辞典改訂第 5 版 (ISBN4-88996-203-4)

[評価方法・基準] 課題図書レポート 30%、日頃の予習・復習 30%、期末試験 40 %

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。連絡用メールアドレスは、第一回に教室にてお知らせします。

授業科目名：情報と社会
 科目英訳名：Information and Society
 担当教員：黒岩 眞吾
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H123001

開講時限等：4 年後期水曜 5 限
 講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 情報画像工学科 (2003 年以前入学)

[授業概要] 情報画像工学科で学習する各分野の基礎知識について講述する。また、これから学習する内容が、社会においてどのような用いられているのかについても学習する。

[目的・目標] 情報分野では、情報工学、科学を学ぶ上での基礎知識を学習し、情報技術が社会に及ぼす影響を幅広い視野で考える力を身につける。特に、情報化が社会に及ぼす影響、情報技術を学ぶものが身に付けておかねばならない高度な情報倫理、守るべき情報モラルについて自分で学び続ける力を身に付ける。

[授業計画・授業内容]

1. 2 進数とデジタル信号
2. 論理回路
3. コンピュータの基本構成
4. ソフトウェアとアルゴリズム
5. 情報ネットワークの歴史とその特性
6. 情報化社会と著作権
7. 情報化社会におけるセキュリティー
8. 試験

[キーワード] 情報化社会, ネットワーク, 著作権, 情報倫理

[教科書・参考書] 特に指定しない。資料を配布する。

[評価方法・基準] 出席と試験で評価する。

[履修要件] 特になし。

[備考] 情報工学概論の読み替え科目である。2003 年度以前の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像工学各論
 科目英訳名：Fundamental Science of Imaging
 担当教員：宮川 信一
 単位数：2.0 単位
 授業コード：T1H007001

開講時限等：4 年後期木曜 4 限
 講義室：工 9 号棟 106 教室

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 画像工学の基礎を他の基礎工学との関連を重視しながら概説する。画像の細分化された専門教育に入る前に、画像技術者として必要最低限の画像工学の基礎、画像産業における実態、技術動向について幅広く解説する。

[目的・目標] 画像工学の基礎を修得する。

[授業計画・授業内容] 画像工学の体系、画像の検知と入力、アナログ画像処理、画像データの処理、画像の解析、画像システムの組み立て、画像ディスプレイ、メモリー媒体と画像の読み出し、画像の記録等。

[教科書・参考書] 教科書:画像工学概論 I,II (丸善)

[評価方法・基準] 出席と試験で評価

[履修要件] 画像概論をはじめ、3 セメスターまでの専門科目 (必修) を履修していることが望ましい。

[備考] 工 9号棟 207教室も使用する。2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H021001

授業科目名： 計算機ハードウェア 科目英訳名： Computer Hardware 担当教員： 宮川 信一 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H021001	開講時限等： 4 年後期木曜 4 限 講義室： 工 9号棟 106 教室
--	---

科目区分
(未登録)

[授業の方法] 講義

[目的・目標] 画像を一旦電気信号に変換して取り扱う画像情報伝達システムにおける要素技術・装置を取り上げる。特に、光情報である画像をいかにして電気信号に変換するかに重点を置いて学ぶ

[授業計画・授業内容] 1) 概説：テレビジョン、画像情報伝達システム；(2) 画像電子装置の基礎：固体、結晶内の自由電子の運動、半導体とキャリア、エネルギー帯構造、仕事関数、金属と半導体の接触、PN 接合と整流作用、電子放出、光電現象と発光現象、真空中の電子の運動；(3) 光電変換素子：光電陰極、光電管、光電子増倍管、光導電セル、光起電池；(4) 画像装置：ブラウン管、撮像管、固体撮像デバイス

[教科書・参考書] 講義第 1 回目に参考書を紹介する

[評価方法・基準] 出席と試験で評価

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H056001

授業科目名： デジタル画像設計論 科目英訳名： Digital Image Design 担当教員： 富永 昌二 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H056001	開講時限等： 4 年後期木曜 2 限 講義室： 工 9号棟 107 教室
---	---

科目区分
(未登録)

[授業の方法]

[授業概要] コンピュータによるデジタル画像処理の基礎理論と手法を具体例と例題を交えてできるだけ平易に解説する。

[目的・目標] 電子画像システムのハードウェアおよびソフトウェア設計に必要なデジタル技術のうち、デジタル画像処理に関する基礎的事項について、濃淡画像の処理を中心に解説する。

[授業計画・授業内容] 全 14 章を毎週 1 章ずつ講義する。概要は以下の通り。[1] 画像処理に必要な数学的基礎：線形代数・フーリエ変換の画像応用 [2] 視覚の特性と画像設計：空間周波数特性、MTF、階調、解像度 [3] 画像のデジタル化：標本化、量子化 [4] 濃淡画像の変換：空間フィルタ、平滑化、鮮鋭化、擬似階調変換 [5] 画像復元の基礎：点像応答、逆畳込み、画像の劣化モデルと復元の考え方

1. 画像処理の目的と分類
2. デジタル画像処理のための線形代数学 (1) 基礎編 ベクトルと行列による画像信号の表現
3. デジタル画像処理のための線形代数学 (2) 応用編 線形代数はどのように画像処理に応用できるか
4. デジタル画像解析のための数学的手法 フーリエ変換、畳み込み積分、相関関数等の基礎
5. 空間周波数領域における画像処理 直交基底による変換：離散コサイン変換・逆変換を例に
6. 視覚特性と画像設計 階調、解像度、鮮鋭度、点像応答、MTF
7. 画像の標本化 ナイキスト条件、エイリアシング
8. 画像の量子化 線形/非線形量子化
9. 画像の濃淡変換 階調変換、ヒストグラム平坦化・特定化
10. 画像の空間フィルタリングの基礎 鮮鋭化、逆畳み込み積分

11. 画像の中間調表現 (1) 濃度階調法、面積階調法、画素の明度・濃度の計算原理
12. 画像の中間調表現 (2) 擬似階調法の原理、網点法・ディザ法・誤差拡散法
13. 画像の復元に関する基礎 劣化モデルと修復の原理、ウィーナフィルタの考え方
14. まとめ 各章の要点と画像処理の具体的応用事例
15. 期末テスト

[教科書・参考書] 各章毎に、毎週プリント資料を配布する。

[評価方法・基準] 出席率、各章の演習問題(宿題)のレポート、期末試験(筆答)を総合して評価する。期末試験を最重視、59点以下は不可。

[履修要件] 線形代数の基礎知識は必須、フーリエ解析を履修していることが望ましい。

[備考] 2004年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H035004

授業科目名：情報工学実験 3

科目英訳名：Information Engineering Laboratories III

担当教員：伊藤 秀男

単位数：2.0 単位

開講時限等：4 年後期木曜 3,4,5 限

授業コード：T1H035004, T1H035005, 講義室：工 情報画像学科 実験室

T1H035006

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する。

[履修要件] 情報工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像システム工学実験 III
 科目英訳名：Laboratory work in Imaging System III
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：4.0 単位 開講時限等：4 年後期木曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H061204, T1H061205, 講義室：工 情報画像学科 実験室
 T1H061206

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学
2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講をみとめない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

授業科目名：画像材料工学実験 III
 科目英訳名：Laboratory work in Imaging Materials III
 担当教員：伊藤 秀男
 単位数：4.0 単位 開講時限等：4 年後期木曜 3,4,5 限
 授業コード：T1H095204, T1H095205, 講義室：工 情報画像学科 実験室
 T1H095206

科目区分
 (未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 本実験は、4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 10 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. 光化学

2. 光化学
3. 分子モデリング
4. 分子モデリング
5. 波動光学応用
6. 波動光学応用
7. 画像処理応用
8. 画像処理応用
9. 画像処理応用
10. 画像処理応用
11. ネットワーク
12. ネットワーク
13. ネットワーク
14. ネットワーク

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する。

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H013001

授業科目名： 回路理論 1 科目英訳名： Electric Circuit Theory 1 担当教員： 北神 正人 単位数： 2.0 単位 授業コード： T1H013001	開講時限等： 4 年前期木曜 4 限 講義室： 工 2 号棟 202 教室
---	--

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可, 科目等履修生 履修可

[授業概要] アナログ信号及びアナログ回路の基本的な考え方, 表現方法, 解析方法などの基礎知識を学習し, また, 演習問題を随時行い, これらの基礎知識を理解する。

[目的・目標] アナログ信号及びアナログ回路の基礎知識を理解し, アナログ信号処理を身に付けることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 抵抗, コイル, コンデンサからなる電気回路を対象に, 定常状態での交流回路を解析する。具体的には, 電圧, 電流等の複素数表示, 回路網解析, 回路の諸定理について講義する。演習も併用して理解を深める。

1. 電流、電圧の基本的性質
2. 電流、電圧とオームの法則
3. 電気回路素子とインピーダンス 1
4. 電気回路素子とインピーダンス 2
5. 正弦波交流と複素表示 1
6. 正弦波交流と複素表示 2
7. 正弦波交流と複素表示 3
8. 中間試験
9. 回路の解き方 1
10. 回路の解き方 2
11. 線形回路の性質 1
12. 線形回路の性質 2
13. 簡単な回路の過渡現象 1
14. 簡単な回路の過渡現象 2
15. 期末試験

[キーワード] 直流回路, 交流回路, 回路網解析, 複素数表示, 回路の諸定理

[教科書・参考書] 藤井信生著「よくわかる電気回路」オーム社

[評価方法・基準] 演習と試験で評価する。

[履修要件] 特になし。

T1H093004

授業科目名: 画像材料工学実験 I

科目英訳名: Laboratory work in Imaging Materials I

担当教員: 矢口 博久

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 4 年後期金曜 3,4,5 限

授業コード: T1H093004, T1H093005, T1H093006
講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 4 年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 20 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. ファイル操作
2. ファイル操作: テキストデータとバイナリデータの入出力を行う
3. 簡易データベース
4. 簡易データベース: リスト構造を用いた簡易データベース
5. 電卓
6. 電卓: 数式が与えられたときにその計算結果を出力
7. 論理回路
8. 論理回路: 簡単な論理回路、順序回路の設計・製作を行なう
9. 結像光学: 光学実験 1 組み合わせレンズ
10. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートを用いた収差計測
11. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートを用いた収差計測
12. 画像作成: フレキシソ刷版の作製
13. 画像作成: 写真
14. 画像作成: 印刷

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像材料工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H060004

授業科目名: 画像システム工学実験 I

科目英訳名: Laboratory work in Imaging System I

担当教員: 矢口 博久

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 4 年後期金曜 3,4,5 限

授業コード: T1H060004, T1H060005, T1H060006
講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 20 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. ファイル操作
2. ファイル操作: テキストデータとバイナリデータの入出力を行う
3. 簡易データベース
4. 簡易データベース: リスト構造を用いた簡易データベース
5. 電卓
6. 電卓: 数式が与えられたときにその計算結果を出力
7. 論理回路
8. 論理回路: 簡単な論理回路、順序回路の設計・製作を行なう
9. 結像光学: 光学実験 1 組み合わせレンズ
10. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートをを用いた収差計測
11. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートをを用いた収差計測
12. 画像作成: フレキシソ刷版の作製
13. 画像作成: 写真
14. 画像作成: 印刷

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 画像システム工学コース以外の学生の受講を認めない

T1H016001

授業科目名: 情報工学実験 1	
科目英訳名: Information Engineering Laboratories 1	
担当教員: 矢口 博久	
単位数: 2.0 単位	開講時限等: 4 年後期金曜 3,4,5 限
授業コード: T1H016001, T1H016002, T1H016003	講義室: 工 情報画像学科 実験室

科目区分

(未登録)

[授業の方法] 実験

[目的・目標] 4年次で行なう卒業研究のための基本となるように計画されている。本実験では、与えられたことをこなすだけでなく、自ら問題を見つけ、それを解決する能力が問われている。各教官から配布されるテキストを良く理解することはもちろんのこと、それ以外の書籍文献等も参照し、情報画像工学のより深い理解を目標とする。

[授業計画・授業内容] 20 数人の班に分かれて以下の内容を行う。実施の順番は配属された班により異なる。

1. ファイル操作
2. ファイル操作: テキストデータとバイナリデータの入出力を行う
3. 簡易データベース
4. 簡易データベース: リスト構造を用いた簡易データベース
5. 電卓
6. 電卓: 数式が与えられたときにその計算結果を出力
7. 論理回路
8. 論理回路: 簡単な論理回路、順序回路の設計・製作を行なう
9. 結像光学: 光学実験 1 組み合わせレンズ
10. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートをを用いた収差計測
11. 結像光学: 光学実験 2 ハルトマンプレートをを用いた収差計測
12. 画像作成: フレキシソ刷版の作製
13. 画像作成: 写真

14. 画像作成: 印刷

[評価方法・基準] 出席とレポートで評価する

[履修要件] 情報工学コース以外の学生の受講を認めない。

[備考] 2004 年度以降の入学生がこの科目を履修しても卒業要件単位にならないので、注意すること。

T1H067001

授業科目名 : 画像複製論 科目英訳名 : Color Image Reproduction 担当教員 : (田島 譲二) 単位数 : 2.0 単位 授業コード : T1H067001	開講時限等: 4 年後期土曜集中 講義室 : 工 2 号棟 101 教室
--	---

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義・演習

[授業概要] カラーキャナ・デジタルカメラ等の入力装置、ディスプレイ、プリンタ等のハードコピーによる、カラー画像の複製に必要とされる、主に測色的色再現の方法につき、線形理論を中心に講義し、更にカラーマネジメントへの応用を解説する。

[目的・目標] 入出力機器のためのカラーマネジメントの実践に必要な色彩学・色再現に関する基礎知識と考え方を身につける。それにより実際の問題に応用できることを目標とする。

[授業計画・授業内容]

1. 画像複製の目的・色覚・Grassmann の法則
2. 等色関数とルーター条件
3. Standard Observer と基準光源
4. 物体色・均等色空間
5. ディスプレイの色再現
6. カラー画像表示の手法
7. カラー画像入力装置の色再現
8. 画像の色補正 / 色修正
9. ハードコピーの色再現・理想色素
10. 減法混色の色再現・カラーマスキング
11. ハーフトーンによる色再現・Neugebauer 方程式
12. ハーフトーンの発生
13. RGB CMYK 変換
14. カラーマネジメントと標準化
15. 試験

[教科書・参考書] (教科書) なし。(参考書) 田島譲二、カラー画像複製論 カラーマネジメントの基礎、丸善。資料コピーを配布予定。

[評価方法・基準] 出席 (10%)、宿題等課題 (10%)、期末試験 (80%)

[履修要件] 線形代数を履修していること。

[備考] 平成 21 年度は、10 月 17 日 (土)、11 月 7 日 (土)、12 月 12 日 (土)、1 月 23 日 (土) に 10:00 ~ 17:00 で開催予定です。講義 (工学部 2-101) と計算機室 (工学部 1-501) での演習を行います。

T1H332001

授業科目名 : デジタル映像システム 科目英訳名 : 担当教員 : (黒沢 俊晴) 単位数 : 2.0 単位 授業コード : T1H332001	開講時限等: 4 年後期土曜集中 講義室 : 工 2 号棟 202 教室
--	---

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース, T1K6:情報画像工学科 (先進科学))

[授業の方法] 講義・実習

[受入人数] 黒沢俊晴 (非常勤, 元松下電器産業, 連絡担当: 津村徳道) (043-290-3262) 50 名程度まで (2 号棟 202 室)

[授業概要] デジタル技術の登場による映像システムの進化と世の中の変化を概観し、最近のデジタル映像システムの構成や特徴的な画像・映像処理技術およびその先端技術と最近の話題を含め幅広く紹介する。

[目的・目標] 目覚しく発展・進化するデジタル映像システムの基礎から応用そして最先端技術まで幅広く理解し将来課題を把握することを目的とする。

[授業計画・授業内容] デジタル技術はさまざまな要素技術の進化・発展とともに映像システムもアナログからデジタルへと発展を遂げています。私達の一番身近な映像装置であるテレビを見ますと、地上波デジタル放送が 2006 年に開始されて以来、より美しい映像表現、テレビとパソコンとの融合やネットワーク化等が進みつつあります。映像素材はデジタルで撮像され、デジタル編集機によって容易に創作が可能になり、そして効率よく圧縮伝送され、いつでもどこでも新鮮な映像を手元で見ることができるようになってきました。本講座はこのように進歩発展の著しいデジタル映像システムについて、身近な映像装置であるテレビに視点を置き、アナログ技術からデジタル技術による映像装置の進化と世の中の変化を時系列に概観しつつ、デジタル映像システムの構成、デジタル映像フォーマット、デジタル映像符号化技術、入出力映像デバイスの基礎とその特徴的デジタル映像処理技術とその先端技術、著作権保護等基礎から応用そして最先端技術まで広範囲な内容を講義する。また「有機 EL は次世代 TV の本命か」「第三の波が来た 3 DTV はお茶の間に入るのか」「世界標準規格化戦争、次は?」「TV はどこまで進化するか」等将来展望についても述べる。

[キーワード] デジタル映像機器、デジタル画像処理、映像符号化、映像デバイス、テレビディスプレイ、標準規格

[評価方法・基準] 出席状況、参加状況、レポート点数を総合して判断

[備考] 黒沢俊晴 (非常勤, 元松下電器産業, 連絡担当: 津村徳道) 3 回 10 月 24 日 (土) 10 時 ~、10 月 31 日 (土) 10 時 ~ 11 月 21 日 (土) 10 時 ~

T1H070001

授業科目名: 画像電子機器工学

科目英訳名: Image Electronics

担当教員: (仲谷 文雄)

単位数: 2.0 単位

開講時限等: 4 年後期土曜集中

授業コード: T1H070001

講義室: 工 2 号棟 202 教室

科目区分

2006 年入学生: 専門選択 F30 (T1H:情報画像工学科 A コース)

[授業の方法] 講義

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[目的・目標] 画像情報を扱う機器のデジタル化が進み、スキャナー、カメラ、ビデオ、プリンタなどのデジタルカラー機器が急速に普及している。これらの進化の過程を十分理解する上で、画像の入出力を合わせ持つ複写機の歴史について解説する。またこれら多数のカラー機器を統一して色彩情報処理を行う「カラーマネジメント」の現状と将来について概説する。

[授業計画・授業内容] (1) 複写機プリンタ技術と画質設計の歴史。(2) 反射物体の色再現の基礎と応用。(3) マルチメディアカラーマネジメントの現状と将来。3 回の集中講義。講義初日に出席者の日程を確認し後 2 回の講義日を設定。

[キーワード] 複写機, プリンタ, カラーマネジメント

[教科書・参考書] プリントを配布

[評価方法・基準] 簡単なレポートを提出。出席時間数と記入内容により評価。

[履修要件] 特になし

[備考] 平成 21 年度の開講日は、12/5(土)、12/12(土)、12/19(土) の 10:00~19:00 とします。